

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七七三	安永2	2/5~	北堀江市ノ側芝居 豊竹此吉座	摂州合邦辻	上(口志妻、奥房、袖、切頼)、下(口八予、中頼、切此)。 ※『近世邦楽年表』祐田善雄による書入れに「三月説」とあるが出所根拠を知らない(『義太夫年表 近世篇』)。	合邦(弥三郎)、合邦女房(友五郎)、玉手御前(重五郎)、奴入平(国八)、浅香姫(三重郎)、俊徳丸(元五郎)、主税之介(友五郎)、はびきの(三重郎)。
△ 一七七三	安永2	4/6~	北堀江市の側芝居 豊竹此吉座	(摂州合邦辻)	上(口志妻、奥房、袖、切頼)、下(口八重、中頼、切此)。 ※黒石陽子「早稲田大学演劇博物館所蔵黒木勘蔵旧蔵透写浄瑠璃番付について(三)(安永~寛政)」(『演劇研究』第21号)に拠る。 ※『義太夫年表 近世篇』所収番付では「伊達娘恋緋鹿子」の後に「摂州合邦辻」があるが、本番付では前。合邦女房の人形役割は「豊松友五郎」とあるが、本番付では「若竹友五郎」。	合邦(弥三郎)、合邦女房(友五郎)、玉手御前(重五郎)、奴入平(国八)、あさかひめ(三重郎)、俊徳丸(元五郎)。
一七九二	寛政4	11/1~	道頓堀東芝居 竹本千太郎座	摂州合邦辻	下の巻(口土佐、中君、切綱)。	がつほう(冠蔵)、がつほう女房(十三郎)、おくがた(文蔵)、奴入平(藤五郎)、あさか姫(勢蔵)、しゅんとく丸(平五郎)。
一七九三	寛政5	2/13~	名古屋 稲荷御社内 夷屋忠吉座	摂州合邦辻	下之巻(口橋、御目見奥綱)。	がつほう(利介)、がつほう女房(万蔵)、玉手御ぜん(朝七)、奴入平(三右衛門)、あさかひめ(伝七)、しゅんとく丸(与三郎)。
一八〇四	文化1	11/15~	道頓堀角の芝居	摂州合邦辻	がつぽう住家のだん(口重、切綱)。	がつほう(文三)、はゞ(重三郎)、玉手のまへ(東作)、折平(熊吉)、しゅんとく丸(大五郎)。
一八一二	文化9	6/25~	いなり社内	摂州合邦辻	下の巻(口今、切津賀)。 ※「迎駕籠死期茜染」と一日替り。	僧がつほう(千次郎)、はゞ(勢蔵)、たまでのかた(国八)、入平(清二)、わさかひめ(小六)、しゅんとく丸(新二)。
一八一六	文化13	6/6~	いなり社内	摂州合邦辻	合邦内のだん(口筆、切土佐)。	合邦(九孝)、合邦女房(重五郎)、玉手のかた(辰造)、入平(菊松)、浅香姫(東造)、俊徳丸(弥三郎)。
一八一六	文化13	8/15~	名古屋 清寿院御境内	摂州合邦辻	合邦内の段(津摩、津賀)。	がつぽう(文吾)、合邦女ぼう(重五郎)、玉手御前(伝七)、いり平(鶴造)、浅香姫(文二)、俊徳丸(与吉)。
一八一八	文政1	8/8~	北堀江市ノ側芝居	摂州合邦辻	合邦住家の段(口咲、切綱)。	がつぽう(文吾)、かつほう女房(林三郎)、玉手ござん(国八)、八郎(弥三郎)、浅香姫(虎造)、しゅんとく丸(大五郎)。
一八一八	文政1	10/12~	京 錦天神芝居	摂州合邦辻	合邦住家の段(口紋、切綱)。	がつほう(千治郎)、がつほう女房(新吾)、玉手のまへ(国八)、やつこ入平(金吾)、あさかひめ(虎造)、しゅんとく丸(大五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八二七	文政10	1/27~	いなり社内	摂州合邦辻	合邦住家の段（口 入=勝右衛門、切 綱=広助）。	合邦（才治）、合邦女房（三左衛門）、玉手御ぜん（三吾）、入平（岩五郎）、あさか（辰造）、俊徳丸（辰助）。	
一八二七	文政10	9/18~	御霊社内	摂州合邦辻	合邦住家のだん（口 半、切 若、跡 佐代、桐、笛、鶴、督）。 ※語り「賤女のぬれ事はしつぽりとした雪ふりの立合差かゝつた計略にあたりはづさぬどくしゆのきゝめは住よしの楽鼓／継母のぬれ事はしつぽりとした念仏のせんべつ切付た切先にあたりはづさぬ血ざけの真じつは天王寺の口時鐘」。	がつぼう（金吾）、合邦女房（勢造）、玉手のまへ（国八）、やつこ入平（源吾）、あさか姫（十九二）、俊徳丸（田吉）。	
一八二八	文政11	8/8~	名古屋 若宮芝居	摂州合邦辻 下の巻	合邦内のだん（つる、綱）。	合法（与吉）、合法女房（喜十郎）、玉て御ぜん（三吾）、奴入平（東造）、あさか姫（東五郎）、しゆんとく丸（新十郎）。	
一八三〇	文政13	閏3/18~	稲荷境内	摂州合邦辻	万代池のだん（岡）、合邦住家のだん（口 三根、切 巴）。 ※語り「賤女のぬれ事はしつぽりとした雪ふりの立合差かゝつた計略にあたりはづさぬどくしゆのきゝめは住よしの楽鼓／継母のぬれ事はしつぽりとした念仏のせんべつ切付た切先にあたりはづさぬ血ざけのしんじつは天王寺の鑄鐘」。	がつぼう（岩五郎）、合邦女房（三左衛門）、玉手のまへ（辰五郎）、奴入平（朝右衛門）、浅香姫（駒造）、俊徳丸（三四）。	
一八三一	天保2	5/27~	名古屋 若宮御社内	摂州合邦辻 下の巻	合法内のだん（口 千賀、切 巴）。	合法（金四）、合法女房（歌六）、玉手御ぜん（門蔵）、奴入平（十九二）、あさか姫（新十郎）、しゆんとく丸（亀吉）。	
△	一八三二	天保3	8/11頃	江戸品川 若松吉兵衛宅	合 邦	（実）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八三二	天保3	8/27	江戸品川本宿 川 熊	合 邦 辻	（実）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八三三	天保4	9	京 四条南側大芝居	摂州合邦辻	合邦住家のだん（口 久、切 巴）。	合邦（兵吉）、合邦女房（重五郎）、玉手御前（千四）、入平（吉之介）、浅香姫（東三）、俊徳丸（門三）。
	一八三四	天保5	2/19~	名古屋 清寿院御境内芝居	摂州合邦辻	合法内ノ段（口 雛、切 巴）。	がつぼう（新治）、ぼゝ（辰治）、玉て御前（三吾）、入平（東造）、ひめ（松介）、しゆん徳丸（吉之介）。
	一八三四	天保5	3/11~	いなり社内	摂州合邦辻	万代が池のだん（巴勢）、合邦住家段（口 錦、切 むら）。	がつぼう（門蔵）、合邦女房（東十郎）、玉年御前（辰五良）、やつこ入平（朝右衛門）、あさか姫（朝之助）、絹徳丸（猪三郎）。
	一八三六	天保7	9/9~	座摩裏門境内	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家ノ段（口 小野、切 鞆）。	合ぼう（文三）、合邦女房（東三）、娘玉手（兵吉）、奴入平（新五郎）、浅香ひめ（猪三郎）、俊徳丸（十九二）。
△	一八三六	天保7	10/18~	名古屋 清寿院門内豊後跡 小屋	合 邦 辻	七つ目（咲、勤）。 ※『見世物雑誌』に拠る。同書に「大坂素浄瑠璃興行。評判よろしからず、三日切仕舞」とある。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八三八	天保9	3	京 誓願寺芝居	摂州合邦辻	(口道、切若)。	合ぼう(文三)、はゞ(東三)、玉手御前(国八)、入平(朝右衛門)、あさかひめ(八蝶)、しゆんとく丸(清五郎)。	
一八三八	天保9	4	播州 明石川	摂州合邦辻	(口道、切若)。	合ぼう(文三)、はゞ(東三)、玉手御前(国口)、入平(朝右衛門)、あさかひめ(八蝶)、しゆんとく丸(清五郎)。	
一八三八	天保9	5/1~	稲荷社内東芝居	摂州合邦辻	万代池の段(巴満、越)、合邦住家ノ段(琴、鞆=咲治)。	合邦(門蔵)、合邦女ぼう(源吾)、玉手ごぜん(辰造)、やつこ入平(門十郎)、浅香姫(咲造)、俊とくまる(庄信)。	
一八三八	天保9	5	兵庫 兵庫芝居	摂州合邦辻	万代池の段(巴満、越)、合邦住家ノ段(琴、鞆=咲治)。 ※前項稲荷社内東芝居の引越興行(『義太夫年表 近世篇』)。	合邦(門蔵)、合邦女ぼう(源吾)、玉手ごぜん(辰造)、やつこ入平(門十郎)、浅香姫(咲造)、俊とくまる(庄信)。	
一八四〇	天保11	9/9~	座摩社内西芝居	摂州合邦辻	合邦住家のだん(種、紀国)。	合邦(一暎)、女ぼう(伊助)、玉手ごぜん(東十郎)、やつこ入平(猪三郎)、俊とく丸(福之助)、浅香ひめ(咲造)。	
一八四一	天保12	8/19~	稲荷社内東芝居	摂州合邦辻	合邦住家のだん(口越、切長門)。	合邦(金四)、合邦女房(重五郎)、玉手御前(辰五郎)、やつこ入平(源吾)、浅香姫(庄吉)、俊とく丸(竹吉)。	
一八四二	天保13	4/5~	座摩社内	摂州合邦辻	万代が池のだん(寿)、合邦住家の段(口大島、切氏)。 ※同一興行と思われるが、初日を4月8日とする別番付あり(『義太夫年表 近世篇』)。	かつぼう(冠四)、合邦女房(朝右衛門)、玉出ごぜん(門蔵)、やつこ入平(福之助)、あさか姫(国三郎)、俊とく丸(磯五郎)。	
△	一八四二	天保13	4/16	徳島 二軒屋裏	合邦辻	※『元木家記録』に拠る。	
△	一八四二	天保13	9/27以前	北ノ新地芝居	合邦辻	合邦内の段(中登茂、切長門)。 ※『増補浄瑠璃大系図』に拠る。	
一八四二	天保13	11/5~	堺 堺新地南芝居	摂州合邦辻	合邦住家のだん(口巴枝、切文字事 春=清八)。 ※三味線は『染太夫一代記』に拠る。	合邦(兵吉)、合邦女房(八十郎)、玉手御前(門十郎)、入平(玉造)、あさかひめ(宗十郎)、俊徳丸(友造)。	
一八四三	天保14	2	名古屋	合邦辻	下ノ巻(綱)。 ※「伊賀越」八つ目と一日替り。 ※番付からは素浄瑠璃興行とみられる(『義太夫年表 近世篇』)。		
一八四三	天保14	3	西宮 西之宮芝居	摂州合邦辻	合邦住家のだん(口実、切長登)。	合ぼう(文三)、合邦女房(国助)、玉手御前(国八)、やつこ入平(吉之助)、浅香ひめ(松之助)、しゆん徳丸(玉造)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四三	天保14	6/10~	京 四条北側芝居	摂州合邦辻	合邦内の段（口八十、切鞆）。	合邦（新吾）、合邦ばゞ（東三）、玉手御ぜん（国八）、入平（福之介）、浅田姫（国三郎）、俊徳丸（新玉）。
一八四四	天保15	8	道頓堀竹田芝居	摂州合邦辻	合邦住家の段（口多賀、切鞆）。	合邦（門蔵）、合邦女房（福之助）、玉手御前（辰造）、浅香姫（徳十）。
一八四五	弘化2	4/2~	四ツ橋南へ入浜	合邦	下（梶）。 ※「みどり浄り番組」の内。	
一八四六	弘化3	5/9~	京 左女牛北側芝居	合邦辻	（政の）。	
△ 一八四六	弘化3	7	西横堀鰻谷浜	摂州合邦辻	※『染太夫一代記』に、梶太夫ほかで「それより盆替りとなりて『摂州合邦辻』長らく打ち続き、金方も悦び」とあるに拠る。	
△ 一八四七	弘化4	11/26~	江戸茅場町 高松亭	合邦	※『染太夫一代記』に拠る。	
一八四八	嘉永1	11	道頓堀竹田芝居	摂州合邦辻	合邦住家の段（口喜代、切長登）。	合邦（門蔵）、合邦女房（東作）、玉手御前（辰造）、奴入平（文五郎）、浅香ひめ（文五郎）、俊徳丸（東作）。
一八四九	嘉永2	閏4/8~	京 左女牛北側芝居	合邦辻	（二見）。 ※素浄瑠璃。	
一八四九	嘉永2	9/18~	兵庫 兵庫定芝居	摂州合邦辻	合邦住家段（口市、切駒）。	合邦（金三）、合邦女房（新治）、玉手御前（八蝶）、奴入平（勇蔵）、浅香姫（徳十）、俊徳丸（千次郎）。
一八五〇	嘉永3	1/3~	西横堀御池ばし	合邦辻	下（小梶）。	
△ 一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 網干	合邦辻	（左乃）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五〇	嘉永3	8/15~	文楽小家	合邦ヶ辻	下の巻（綱＝大蔵）。 ※「みどり浄瑠璃」の内。	
△ 一八五一	嘉永4	1	西横堀御池橋北へ 入所	合邦	内（菊寿）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五二	嘉永5	8/1~	京 寺町寅やくし	合邦辻	下ノ巻（寿太）。 ※「かげゑ」浄瑠璃。	
一八五二 ~ 一八五三	嘉永5 ~ 嘉永6	閏2/6 以後 8以前	京	合邦ヶ辻	（浪）。	
一八五三	嘉永6	3/29~	新築地清水町浜小 家	摂州合邦辻	万代ヶ池のだん（町）、合邦住家の段（中当久、切巴＝団平）。	
一八五三	嘉永6	11	兵庫 兵庫定芝居	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家のだん（口中、切長登）。	合邦（才治）、合邦女房（三朝）、玉手御前（冠十郎）、奴入平（文治）、浅香姫（国八）、俊とく丸（国三郎）。
一八五四	嘉永7	3	道頓堀竹田芝居	摂州合邦辻	合邦住家ノ段（口越、切長登）。	合邦（冠十郎）、玉手御前（新吾）、入平（文治）、あさかひめ（小竹）、俊徳丸（福之助）。
一八五四	嘉永7	10上旬	名古屋 清寿院御境内	合邦辻	合法住家ノ段（春）。 ※素浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八五五	安政2	3/3~	稲荷東門小家	摂州合邦辻	合邦内のだん（口 八十、切 春）。		
一八五五	安政2	8	天満天神大門東小家	摂津合邦辻 上下	四天王寺万代ヶ池（美咲=太三郎）、合邦住家のだん（口 薫=力松、切 江戸下り 君=竜七）。		
一八五七	安政4	4/17~	あみだ池小家	摂津合邦辻 下之巻	合邦住家のたん（口 種、切 蝦）。		
一八五七	安政4	9/24~	京 四条寺町道場北新 席	合邦辻	下之巻（津賀）。		
一八五九	安政6	7/29~	稲荷社内東芝居	摂州合邦辻	合邦住家のだん（中 佐賀、切 長登）。	合邦（清七）、合邦女房（新五郎）、玉手御前（兵吉）、奴入平（千柳）、浅香姫（竹吉）、俊徳丸（小玉）。	
△	一八五九	安政6	9/13	紀州 道成寺門前小家	合邦辻	下（筆）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五九	安政6	10/8	紀州 湯 浅	合邦辻	（筆）。	
	一八六二	文久2	10	堺 堺 大 寺	摂州合邦辻	合邦内の段（口 其、切 長尾）。	合邦（兵吉）、玉手御前（辰造）、入平（兵三郎）、浅香姫（小兵吉）、俊とく丸（辰之助）。
△	一八六三	文久3	1/7	紀州 小島付近	合邦	下（米=飛雀）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八六三	文久3	11/1~	いなり社内東小家	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 住、切 染）。	合邦（才治）、合邦女房（喜十郎）、玉手御前（松江）、入平（新五郎）、浅香姫（清蔵）、俊とく丸（安蔵）。
	一八六四	文久4	1/29~	京 和泉式部北向	摂州合邦辻	万代ヶ池ノ段（宮戸=兵吉）、合邦住家のだん（春=吉兵衛）。 ※素浄瑠璃。	
	一八六四	元治1	4/20~	天満天神社内戒門	合邦辻 下の巻	（口 相模、切 長尾）。	
	一八六五	元治2	1/5~	京 四条道場北ノ小家	合邦辻 下ノ巻	（宮戸=兵吉）。 ※素浄瑠璃。	
	一八六六	慶応2	1/2~	京 四条道場北ノ小家	摂州合邦辻 下ノ巻	合邦住家ノ段（口 津賀子=庄之助、切 津賀=弥七）。	
	一八六六	慶応2	3/23~	京 四条道場北ノ小家	合邦辻	下ノ巻（小賀=喜市）。	
	一八六六	慶応2	6/18~	京 四条北側大芝居	合邦辻	下ノ巻（相模=吉兵）。	
	一八六七	慶応3	7/23~	京 四条道場北ノ小家	合邦辻	下ノ巻（対馬=吉弥）。	
	一八六七	慶応3	10	名古屋 若宮御社内	合邦辻 下ノ巻	（津賀）。	合邦（才治）、合邦女房（才九）、玉手御ぜん（清十郎）、入平（藤助）、あさかひめ（清治郎）、俊とく丸（金旭）。
	一八六七	慶応3	11/13~	いなり社内東芝居	摂州合邦ヶ辻	合邦住家ノ段（中 音羽、切 湊）、四天王寺東門ノ段（理久）。	合邦（玉造）、合邦女房（勢造）、玉手御前（辰造）、奴入平（松江）、浅香姫（琴糸）、俊徳丸（玉之助）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八六七	慶応3	12/8~	京 四条北側芝居	合 邦 辻	下ノ巻（春＝吉兵衛）。		
一八六八	慶応4	1/2~	京 四条北側大芝居	合 邦 辻	下ノ巻（春＝吉兵衛）。		
△	一八六九	明治2	1/8~	京都 寺町北向芝居	合 邦 辻	※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男（辻町）文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
△	一八六九	明治2	4/2~	京都 和泉式部芝居	摂州合邦辻	※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男（辻町）文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
	一八六九	明治2	10/11~	京都 四条道場北ノ小家	合 邦 辻	下ノ巻（津賀＝豊吉）。 ※上演年次の推定は『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八七〇	明治3	3/24~	京都 四条道場北ノ小家	摂州合邦辻	合邦住家のだん（口 小賀、切 駒＝吉弥）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』、『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男（辻町）文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
△	一八七一	明治4	3/3~	京都 四条道場北ノ小家	合 邦 辻	※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男（辻町）文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
	一八七一	明治4	11	いなり文らく芝居	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家の段（中 中、切 春）。 ※「十一月十三日ヨリ廿七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（喜十郎）、合邦女房（鹿造）、玉手御ぜん（玉造）、奴入平（玉宗）、浅香姫（小玉）、俊徳丸（小兵吉）。
	一八七二	明治5	1	座摩社内芝居	合 邦 辻	下の巻（時子＝勝治）。 ※素浄瑠璃。	
	一八七三	明治6	5	南堀江新席	合 邦 辻	下之巻（儀＝富次）。 ※素浄瑠璃。	
	一八七五	明治8	7	名古屋 橋 座	合 邦 辻	下の巻（小賀＝仙之助）。 ※太夫 豊竹古鞠太夫。	
	一八七五	明治8	9	松嶋文楽座	摂州合邦ヶ辻	合邦住家のだん（中 氏、切 越路）。 ※「九月九日ヨリ卅九日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（玉治）、合邦女房（小玉）、玉手御前（玉造）、奴入平（兵吉）、浅香姫（辰吉）、俊徳丸（玉太郎）。
	一八七五	明治8	11	竹田芝居	摂州合邦辻	（春＝団平）。 ※素浄瑠璃。	
	一八七五	明治8	12	名古屋 末 広 座	合 邦 辻	（駒）。 ※太夫 豊竹駒太夫。	
	一八七七	明治10	1	大江ばし席	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家の段（中 春戸、切 春＝*団平）。	合邦（才治）、合邦女房（勢造）、玉手御前（辰造）、奴入平（駒十郎）、浅香姫（兵三）、俊徳丸（勇造）。
	一八七七	明治10	2/13~	弁 天 座	合 邦 ヶ 辻	（春）。 ※「過し日のノ其年月もノめぐり来て 連営手向の薫樹 礼拝三度」の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
	一八七八	明治11	1	名古屋 愛 栄 座	合 邦	下の巻（越路）。 ※太夫 竹本越路太夫。	
	一八七九	明治12	1/1~3	京都 道 場 演 劇	合 邦 辻	下の巻（春子＝九市）。 ※素浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八七九	明治12	2	道頓堀角の芝居	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家の段（富、駒＝*吉弥）。	合邦（辰五郎）、合邦女房（勢造）、玉手御前（辰造）、奴入平（兵三）、浅香姫（辰十郎）、俊徳丸（光栄）。	
一八八一	明治14	6	松嶋文楽座	摂州合邦辻	住吉社参の段（路）、合邦住家の段（中氏、切越路）。 ※「六月十一日ヨリ七月十三日マデ卅三日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（紋十郎）、合邦女房（玉助）、玉手御前（玉造）、奴入平（玉治）、浅香姫（鹿造）、俊徳丸（辰吉）。	
一八八四	明治17	7	京都 夷谷座	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家の段（組栄＝文作）。 ※浄留里身振。		
一八八五	明治18	5	御霊文楽座	摂州合邦辻	住吉浜辺の段（織）、合邦住家の段（中南部＝*勝市、切越路＝*吉兵衛）。 ※「五月廿二日ヨリ廿四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（玉造）、合邦女房（燕造）、玉手御前（紋十郎）、入平（辰枝）、浅香ひめ（玉米）、俊徳丸（玉七）。	
一八八五	明治18	11/21～30	東京 猿若町一丁目	摂州合邦辻	住吉浜辺の段（織＝叶）、合邦住家の段（中南部＝福太郎、切越路＝吉兵衛）。 ※三味線役割は『中西仁智雄コレクション 浄瑠璃番付写真集』に、千種楽は演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	合邦（玉造）、合邦女房（玉五郎）、玉手御前（紋十郎）、八（マ）平（玉枝）、浅香姫（玉栄）、しゆんとく丸（玉七）。	
一八八六	明治19	3/1～	彦六座	摂州合邦辻	合邦内の段（中源、切大隅＝団平）、延磨堂建立の段（若松）。 ※「三月一日ヨリ十七日マデ十七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（才治）、合邦女房（東十郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵吉）、浅香ひめ（松江）、俊徳丸（玉松）。	
一八八七	明治20	10/5～	彦六座	摂州合邦辻 下の巻	合邦内の段（中新鞆、切柳適、此所出つかひにて御覧に入申候）。 ※番付には「十月五日より」とあるが、『千賀女日記』には「十月七日ヨリ廿四日マデ十八日間」とある（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（才治）、合邦の女房（門造）、玉手御ぜん（辰五郎）、奴入平（兵吉）、朝香ひめ（亀登）、俊徳丸（玉松）。	
△	一八八八	明治21	1/28	名古屋 末広座	摂州合邦辻	下の巻（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八八	明治21	2/19	名古屋 末広座	合邦辻	下の巻（越路＝吉兵衛）。 ※越路太夫・吉兵衛らによる素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八八	明治21	7/27	名古屋 千歳座	合邦辻	下（越代＝広七）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	1/25	京都 北の劇場	合邦	下の巻（越路＝吉兵衛）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八八九	明治22	5	御霊文楽座	摂州合邦辻	住吉社参の段（谷）、合邦住家の段（中織、切越路）。 ※「五月三十日ヨリ六月二十三日マデ二十三日間」「五月三十日ヨリ二十四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	合邦（玉造）、合邦女房（玉亀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉治）、俊徳丸（金之助）。
△	一八八九	明治22	8/18	京都 北側演劇場	合邦辻	下の巻（路＝鶴太郎）。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八八九	明治22	12/17	名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九〇	明治23	1/2～	彦六座	摂州合邦辻	俊徳街道のだん（芳）、合邦内のだん（中生嶋＝*友松、切大隅＝団平、此所出つかひにて御覧に入申候）。 ※「この時の端場はお千賀さんの添削に、団平師匠の節付で講中のお斎よばれの条でした」（『道八芸談』）。	合邦（光造）、合邦女房（門造）、玉手御前（辰五郎）、奴入平（小友）、浅香ひめ（小三）、俊徳丸（亀鶴）。
△	一八九〇	明治23	2/20	名古屋 千歳座	合邦	下巻（七五三）。 ※大阪彦六座、朝太夫・広作一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	3/20	京都 南劇場	合邦辻	下の巻（大隅＝団平）。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	4/23	名古屋 千歳座	合邦が辻	下の巻（大隅＝団平）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/10	名古屋 末広座	合邦	下の巻（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	8/7	京都 道場座	摂州合邦辻	下の巻（高尾＝才吉）。 ※竹本津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九一	明治24	10	彦六座	摂州合邦ヶ辻 下の巻	住吉浜辺の段（田喜）、合邦住家の段（中伊達＝*友松、切大隅＝団平）。	合邦（光造）、合邦女房お尼（門造）、玉手御前（亀松）、入平（宗十郎）、浅香ひめ（紋之助）、俊徳丸（巳之助）。
△	一八九二	明治25	7/24	名古屋 千歳座	合邦の辻	下の巻（高尾）。	
		7/27	合邦辻		下の巻（相生）。		
		7/31			下巻（鶴尾）。 ※文楽・彦六両座合併。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一八九二	明治25	8/13	名古屋 笑福座	合邦が辻	下の巻（相生）。 ※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九三	明治26	1/2～	彦六座	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（中組尾、切七五三）。	合邦（玉松）、玉手御前（鹿造）、奴入平（小友）、浅香姫（三十郎）、俊徳丸（紋之助）。
△	一八九三	明治26	8/12	名古屋 末広座	合邦が辻	下の巻（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/23	京都 南座	摂州合邦辻	下ノ巻（越路＝広助）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八九三	明治26	10/15	名古屋 音羽座	合邦が辻	下の巻(殿母)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九三	明治26	10	御霊文楽座	摂州合邦辻	万代池のだん(口津弥、奥さの)、合邦住家の段(中綾、切越路)。 ※「十月十日ヨリ十一月七日マデ廿七日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	親合邦(玉造)、合邦女房(玉治)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(玉助)、浅香姫(玉五郎)、俊徳丸(卯三郎)。
△	一八九四	明治27	1/26	名古屋 宝生座	合邦ヶ辻	下ノ巻(一風=大造)。 ※「大坂文楽座出勤若手三味線鶴沢小庄が今回(このたび)鶴沢大造と改名せし披露…」(『扶桑新聞』1月25日)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/7	京都 南座	合邦	下の巻(高尾)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/8 8/14	名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻(さの)。 下の巻(操)。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九五	明治28	12/17	浪花座	合邦辻	下の巻(此=森助)。 ※稲荷座総一座。素浄瑠璃。	
△	一八九六	明治29	1/27	名古屋 千歳座	合邦	下の巻(七五三)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	2/15 2/17	名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻(菅)。 下の巻(七五三)。 ※竹本越太夫一座による素浄瑠璃。前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九六	明治29	5/1~	稲荷座	摂州合邦辻 下の巻	合邦内のだん(中伊達=*友松、切大隅=団平)。	合邦(玉松)、合邦ば(宗七)、玉手御前(清十郎)、奴入平(金花)、朝香姫(栄三)、俊徳丸(簗助)。
△	一八九六	明治29	8/8	名古屋 末広座	摂州合邦辻	下の巻 合邦内の段(大隅=団平)。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	12/21	名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻(雛=猿二郎)。 ※竹本越太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	1/12	名古屋 笑福座	合邦辻	合邦内(広井)。 ※「若手揃浄瑠璃興行」(『扶桑新聞』1月10日)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	3/14	名古屋 音羽座	合邦ヶ辻	合邦住家の段(園=大七)。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八九七	明治30	7/10	名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻（生島＝仙昇）。 ※竹本組太夫・住太夫・朝太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/18	名古屋 宝生座	合邦辻	下の巻（伊達＝友松）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	8/1	京都 南座	合邦辻	下の巻（尾上＝勝友）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	10/30	京都 南座	合邦辻	下の巻（操）。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/6	京都 南座	合邦辻	下の巻（文字）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/15 8/21	名古屋 御園座	合邦辻	下の巻（七五三＝仙昇）。 下の巻（文字＝猿糸）。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一八九八	明治31	9/3	中劇場	（摂州合邦辻）	下の段（七五三）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	12/9 12/20	名古屋 御園座	合邦辻 摂州合邦辻	下の巻（大隅＝叶）。 下の巻（菊＝卯三郎）。 ※大阪 大隈(マ)太夫一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	3/15	名古屋 末広座	合邦辻	下の巻（品）。 ※大阪稲荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/25 8/2	京都 南座	合邦辻	下の巻（文字＝猿糸）。 下の巻（七五三＝仙昇）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	9/5	名古屋 末広座	合邦辻	下の巻（芳）。 ※住太夫・春子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	12/24	京都 南座	合邦辻	下の巻（七五三＝仙昇）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇〇	明治33	3/13~	明 楽 座	撮 州 合 邦 辻 下の巻	合邦内のだん（中 此、切 大隅）。 合邦（門蔵）、合邦女房（玉五郎）、玉手御前（玉松）、奴入平（友造）、浅香姫（栄三）、俊徳丸（玉治郎）。
△	一九〇〇	明治33	7/29	京 都 南 座	合 邦 辻 （文字）。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/12	名 古 屋 末 広 座	合 邦 辻 下の巻（文字）。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	11	御霊文楽座	撮 州 合 邦 辻 住吉社参詣のだん（口 小富、奥 文）、合邦住家のだん（中 むら、切 越路）。 ※「十一月一日ヨリ十二月九日マデ四十一日間、十日十一日祝儀」（『義太夫年表 明治篇』）。	親合邦（玉造）、合邦女房（玉治）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉助）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（多為蔵）。
△	一九〇〇	明治33	12/1	名 古 屋 末 広 座	合 邦 辻 下の巻（大隅＝叶）。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	4/10	京 都 弁 天 座	合 邦 辻 下の巻（路）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	5/5~25	京 都 弁 天 座	撮 州 合 邦 辻 ※玉造・玉助一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	父合邦（兵吉）、玉手御前（簗助）。
△	一九〇一	明治34	6/19	名 古 屋 千 歳 座	合 邦 辻 下ノ巻（伊達）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	7/24	名 古 屋 歌 舞 伎 座	合 邦 辻 下の巻（越路＝吉兵衛）。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/9	京 都 南 座	撮 津(マ) 合 邦 辻 合邦住家（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/20	名 古 屋 末 広 座	合 邦 辻 下の巻（大隅＝叶）。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	11/15~	明 楽 座	撮 州 合 邦 辻 下の巻 合邦住家のだん（中 春子、切 大隅＝叶）。 ※「暮に、初役の玉手御前を遣ひましたが、これは、前に彦六座で、辰五郎さんの足を遣つて居て、型を憶えて居ましたから、その通り遣つたのですが（後略）」（『吉田栄三自伝』）。	合邦（玉松）、合邦のぼり（清十郎）、玉手御前（栄三）、入平（門蔵）、朝香姫（玉五郎）。
△	一九〇一	明治34	12/8	京 都 布 袋 座	合 邦 辻 下（七五三＝新左衛門）。 ※七五三太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/11	名 古 屋	合 邦 辻 下の巻（新靱＝市治郎）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		12/16	末広座		下の巻（緑＝猿之助）。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	4/2 名古屋 末広座	摂州合邦辻	合邦内（七五三＝新左衛門）。 ※竹本七五三太夫・生島太夫・さの太夫・三味線 豊沢新左衛門・ 仙十郎・外十数名。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/7 京都 南座	合邦	（文字＝吉弥）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/23 京都 歌舞伎座	合邦辻	下（大隅）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	9/2 京都 岩神座	（摂州合邦辻）	合邦内（大隅）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/18 京都 夷谷座	合邦	下の巻（弥▲（王偏に玉））。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/20 12/23 名古屋 千歳座	合邦辻 （摂州合邦辻）	下の巻（富）。 合邦（加賀）。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/17 名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦内の段（越路＝吉弥）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/4 京都 南座	合邦	（越路＝吉弥）。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	12/5 名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻（生嶋）。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	7/22 名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦内の段（越路）。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/7 京都 歌舞伎座	（摂州合邦辻）	合邦内（越路＝吉弥）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/14 京都 千本座	合邦辻	（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇四	明治37	9/15	名古屋 歌舞伎座	摂州合邦	下の巻 合邦内の段（大隅）。 ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・鑊太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇四	明治37	11	御霊文楽座	摂州合邦辻	住吉社参のだん（口 富、奥 南部）、合邦住家のだん（中 むら、切 大隅＝清六）、合邦ヶ辻のだん（殿母・谷栄・越可・津直・谷登・津磨・隅の・千代）。 ※「十一月一日ヨリ十一月十六日マデ十六日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	親合邦（多為蔵）、合邦女房（玉五郎）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉助）、浅香姫（栄三）、俊徳丸（政亀）。
△	一九〇五	明治38	1/24	京都 朝日座	（摂州合邦辻）	合邦内（伊達＝市二郎）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	2/23	名古屋 新守座	合邦辻	庵室の段（越路＝吉弥）。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	6/2	京都 岩神座	合邦	下（操）。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	7/11	名古屋 新守座	合邦ヶ辻	下の巻（津葉め）。 ※竹本文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	7/15	東京 歌舞伎座	合邦	（大隅＝清六）。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	8/15	京都 南座	合邦	（源子）。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※「京都日出新聞」（8月15日）には、役割が「下（鑊）」とある。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	8/26	京都 千本座	合邦	（鑊）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	9/1	名古屋 千歳座	合邦辻	下の巻（鑊）。 ※「大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	12/11	京都 明治座	合邦辻	（大隅＝清六）。 ※撰津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	2/9	京都 南座	合邦	下（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇六	明治39	5/5～	堀江座	摂州合邦辻	合邦内のだん（中 鑊＝*猿治郎、切 伊達＝*市治郎）。	合邦（玉治）、合邦女房（兵三）、玉手御前（玉松）、奴入平（兵吉）、浅香姫（東助）、俊徳丸（玉市）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇六	明治39	6/29	天満座	合邦辻	下の巻(鏝)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	7/25	京都歌舞伎座	合邦	下(大隅)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/6	名古屋歌舞伎座	合邦ヶ辻	下(津ばめ)。 ※竹本津ばめ太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/7	名古屋末広座	(摂州合邦辻)	合邦(越路)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	12/5	名古屋末広座	(摂州合邦辻)	合邦(菅=友三郎)。	
			12/13		合邦辻	(和佐)。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座による「合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	8/12	京都南座	合邦	下(越路=吉弥)。 ※撰津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇七	明治40	9/5~	堀江座	摂州合邦辻	合邦内のだん(中 雛、切 大隅=*団平)。	合邦(玉松)、合邦のぼゞ(兵三)、玉手御前(亀松)、奴入平(玉治)、浅香姫(小兵吉)、俊徳丸(玉市)。
△	一九〇七	明治40	12/14	名古屋御園座	合邦辻	(七五三=綱造)。	
			12/17			下の巻(常子)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・メ太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/16	名古屋末広座	合邦ヶ辻	(染=広作)。	
			12/19			下の巻(鏝)。 ※「大阪文楽/堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	2/24	京都歌舞伎座	合邦	下の巻(鏝)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4/10	名古屋末広座	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段(大隅=団平)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	7/15	名古屋御園座	合邦辻	庵室(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。竹本撰津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇八	明治41	8/4	京都南座	合邦ヶ辻 下(大隅)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/14	中座	(大隅)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/7	京都南座	合邦 下(七五三=綱造)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/15	京都岩神座	合邦 下(鑊)。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/9	名古屋御園座	(摂州合邦辻) 合邦住家(七五三=綱造)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/11 12/17	東京歌舞伎座	合邦 (越路=吉兵衛)。 下(常子)。 ※竹本撰津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	2/17 2/21	京都南座	合邦 下(越路=吉兵衛)。 下(常子)。 ※文楽一座、越路太夫・村太夫・南部太夫・呂太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	7/24~25	名古屋千歳座	(摂州合邦辻) 下(鑊)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8/18~	常盤座	(摂州合邦辻) 下の巻(静)。 ※吉田文五郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	(不明)
△	一九〇九	明治42	8/19	京都岩神座	合邦 (染)。 ※大阪文楽座、染太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8	名古屋御園座	撮州合邦辻 合邦内の段(越路)。 ※『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/1	京都南座	合邦 下(古靱=清六)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/9	京都国華座	合邦 下(さの=大之助)。 ※東阪合同浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇九	明治42	9/10~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦住家のだん（中 時=鶴太郎、切 越路=吉兵衛）。 ※「九月十日ヨリ十月廿四日マデ四十四日間」「九月十日ヨリ四十五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「紋十郎病気休演、玉手三左衛門代役」「越路太夫初役ノ合邦大好評」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「合邦住家のだん・中」の三味線は、『浄瑠璃雑誌』第80号に拠る。	親合邦（玉治）、合邦女房（門造）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（栄三）、浅香姫（琴糸）、俊徳丸（玉子）。
△	一九〇九	明治42	角座	合邦	（伊達）。 ※堀江座連による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	名古屋千歳座	合邦	下（鳴門=善次郎）。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都明治座	合邦	下（越路=吉兵衛）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九一〇	明治43	堀江座	摂州合邦辻 下の巻	合邦住家のだん（中 大嶋=*竹三郎、切 大隅）。	合邦（駒十郎）、合邦女房（兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（東吉）、浅香姫（兵次）、俊徳丸（玉吉）。
△	一九一〇	明治43	名古屋末広座	合邦	下の巻（大隅=団平）。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	名古屋御園座	摂州合邦辻	合邦庵室の段（越路=吉兵衛）。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都南座	（摂州合邦辻）	合邦住家（越路=吉兵衛）。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都国華座	合邦	下（越路=吉兵衛）。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都歌舞伎座	合邦	庵室（鏝）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都岩神座	合邦辻	（鏝）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都明治座	合邦辻	下（越路）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一〇	明治43	12/13	名古屋 御園座	合邦辻	下の巻(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古朝太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一一	明治44	1/2~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦住家のだん(中むら、切摂津大掾)。 ※「一月二日ヨリ二月十二日マデ四十日間」「一月二日ヨリ四十二日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	親合邦(多為蔵)、合邦女房(三吾)、 玉手御前(栄三)、奴入平(紋三)、浅 香姫(紋枝)、俊徳丸(三左衛門)。
	一九一一	明治44	3/1~	堀江座	摂州合邦辻 下の巻	合邦内のだん(中司、切春子)。 ※「司太夫ハ敷島太夫ガ代役」(『義太夫年表 明治篇』)。	合邦(駒十郎)、合邦女房(冠四)、玉 手御前(玉造)、奴入平(兵吉)、浅香 姫(玉吉)、俊徳丸(玉市)。
△	一九一一	明治44	3/25	名古屋 御園座	合邦辻	下(鑊)。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	7/7	京都 歌舞伎座	合邦	(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	8/5	浪花座	合邦	下の巻(越路)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	9/2	京都 南座	合邦	下(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/10 10/12	名古屋 末広座	合邦	下(三笠=団二郎)。 下(春子=新左衛門)。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	12/19	名古屋 御園座	摂州合邦辻	下の巻(越路)。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	4/11	京都 開盛座	合邦	下(鑊)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九一二	明治45	4/21~	近松座	摂州合邦辻 下の巻	合邦内のだん(中鑊=*団六、切伊達)。	合邦(駒十郎)、合邦女房(冠四)、玉 手御前(玉造)、奴入平(清吉)、浅香 姫(文五郎)、俊徳丸(兵次)。
△	一九一二	明治45	7/13	浪花座	合邦	上下(越路=吉兵衛)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一二	大正1	10/20~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦住家のだん(中源=*吉松、切越路=吉兵衛)。 ※竹本源太夫の代役、竹本常子太夫(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「三十日間十一月十八日迄」(『義太夫年表 大正篇』)。	合邦(多為蔵)、合邦女房(三吾)、玉 手御前(栄三)、奴入平(琴糸)、浅香 姫(玉七)、俊徳丸(玉治郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一三	大正1	12/6	東京 新 富 座	(摂州合邦辻)	合邦(越路=吉兵衛)。 ※素浄瑠璃。 ※『演芸倶楽部』(大正2年1月号)に拠る。	
△	一九一三	大正1	12/25	京都 明 治 座	合 邦	※女義太夫呂昇一座に文楽座の人形出遣い。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	合邦(多為蔵)、女房(玉五郎)、玉手御前(栄三)、入平(伝之助)、浅香姫(琴糸)、俊徳丸(玉七)。
△	一九一三	大正2	2/9	京都 南 座	(合 邦)	下(大隅=団平)。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	2/21	名古屋 末 広 座	(摂州合邦辻)	合邦(錦)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	7/5	京都 京 都 座	(合 邦)	(越路)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	11/5 11/10	名古屋 帝 国 座	(摂州合邦辻)	合邦庵室(鏝=団六)。 合邦内(初音)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	11/23	京都 明 治 座	合 邦	(越路=清六)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/5	東京 明 治 座	(摂州合邦辻)	(静=源吉)。 ※錦太夫・団平・静太夫・源吉一座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/8	東京 新 富 座	(摂州合邦辻)	(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/15	名古屋 御 園 座	摂 州 合 邦 辻	下(越路)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	5/8	京都 岩 神 座	合 邦	(鏝)。 ※大阪文楽座、鏝太夫・団六ほか。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	6/1~	近 松 座	摂 州 合 邦 辻 下の巻	住吉浜辺のだん(敷嶋)、合邦内のだん(中組栄=*龍市、切春子=*新左衛門)。	合邦(玉蔵)、合邦女房(兵吉)、玉手御前(文五郎)、奴入平(東吉)、浅香姫(玉米)、俊徳丸(玉市)。
△	一九一四	大正3	7/13	京都 南 座	合 邦	(鏝)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/22	名古屋 御 園 座	合 邦 辻	下(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一四	大正3	8/3	東京 新 富 座	(摂州合邦辻) (鑿=団六)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	8/17	名古屋 末 広 座	(摂州合邦辻) 合邦(米=富治)。 ※竹本錦太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一四	大正3	9/23~	御霊文楽座	摂州合邦辻 合邦住家のだん(中時=*勇造、切越路=吉兵衛)。 ※「二十五日間 十月十八日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	合邦(多為蔵)、合邦女房(駒十郎)、 玉手御前(栄三)、奴入平(文三)、浅 香姫(琴糸)、俊徳丸(紋三)。
△	一九一四	大正3	12/10	名古屋 御 園 座	摂州合邦辻 合邦庵室の段(越路=吉兵衛)。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/4	京都 南 座	合 邦 (越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/12	浪 花 座	合 邦 (越路=吉兵衛)。 ※「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/20	名古屋 御 園 座	合 邦 辻 下の巻(越路=吉兵衛)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	12/4	名古屋 御 園 座	合 邦 辻 下の巻(越路=吉兵衛)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一五	大正4	12/15	名古屋 末 広 座	(摂州合邦辻) 合邦(鑿)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一六	大正5	5/10	名古屋 末 広 座	合 邦 下(春子=新左衛門)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	7/5	京都 南 座	合 邦 辻 (越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	7/13	浪 花 座	(摂州合邦辻) 合邦(錦)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎、近松座、錦・弥・角太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/2 8/6	京都 明 治 座	合 邦 ヶ 辻 合邦ヶ内(錦)。 (米)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/10	名古屋 末 広 座	合 邦 下の巻(錦=仙市)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
	一九一六	大正5	10/31~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦住家のだん（静=*歌助/*一弥、越路=吉兵衛）。 ※「二十八日間」（『義太夫年表 大正篇』）。	親合邦（文三）、合邦女房（駒十郎）、 玉手御前（文五郎）、奴入平（玉治郎）、 浅香姫（玉七）、俊徳丸（玉市）。
△	一九一六	大正5	12/8	東京歌舞伎座	（摂州合邦辻）	下の巻（越路=吉兵衛）。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	5/6	名古屋末広座	（摂州合邦辻）	合邦（静=芳之助）。 ※豊竹古鞠太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/11	京都南座	合邦	下（越路=吉兵衛）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/13	名古屋末広座	（摂州合邦辻）	合邦（錦=団六）。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/21	名古屋蓬座	合邦	下の巻（錦=団六）。 ※竹本錦太夫・竹本角太夫・三味線 竹沢団六・豊沢兵吉。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一七	大正6	9/16~	京都竹豊座	摂州合邦辻	合邦住家のだん（中敷嶋=*新三郎、切春子=*新左衛門）。 ※「十月二日迄」（『義太夫年表 大正篇』）。	親合邦（辰五郎）、合邦女房（兵三）、 玉手御前（小兵吉）、奴入平（冠四）、 浅香姫（玉米）、俊徳丸（紋太郎）。
△	一九一七	大正6	12/6	東京歌舞伎座	（摂州合邦辻）	下（越路=吉兵衛）。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12/20	名古屋御園座	合邦辻	下の巻（越路）。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（不明）
	一九一八	大正7	4/19~	御霊文楽座	摂州合邦辻	万代池のだん（古鞠=*吉弥）、合邦住家のだん（中駒=*燕四、切越路=吉兵衛）。 ※豊竹古鞠太夫1週間休演、竹本八十太夫代役（『義太夫年表 大正篇』に拠る）。 「三十三日間 節季休みせず打越」（『義太夫年表 大正篇』）。	親合邦（玉蔵）、合邦女房（玉五郎）、 玉手御前（文五郎）、奴入平（玉治郎）、 浅香姫（玉七）、俊徳丸（政亀）。
△	一九一八	大正7	7/18	名古屋御園座	合邦	下（越路=吉兵衛）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	8/2	京都南座	合邦辻	（越路）。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一八	大正7	8/10	中座	(摂州合邦辻) 合邦(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/1	東京歌舞伎座	(摂州合邦辻) 下の巻。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/4	名古屋千歳座	合邦 下(つばめ)。 ※研声会一座による「大阪文楽座青年浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一九	大正8	4/20~	京都竹豊座	摂州合邦辻 百万遍のどん(南登=*小兵)、合邦住家のどん(錦=*八助)。 ※「祝三周年特別興行」(番付)。	親合邦(辰五郎)、合邦女房(兵三)、 玉手御前(小兵吉)、奴入平(三郎)、 浅香姫(玉米)、俊徳丸(光之助)。
△	一九一九	大正8	7/6	名古屋御園座	合邦 下の巻(鏝=徳太郎)。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(文五郎)。
△	一九一九	大正8	7/12	京都南座	合邦 下(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	8/12~17カ	東京新富座	(摂州合邦辻) (伊達=吉三郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	合邦(玉蔵)、玉手(栄三)。
△	一九一九	大正8	8/20	浪花座	(摂州合邦辻) 合邦内(伊達=吉三郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	9/13	名古屋末広座	(摂州合邦辻) 合邦(伊達=吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/11	東京歌舞伎座	(摂州合邦辻) 庵室(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/22	名古屋御園座	(摂州合邦辻) 合邦(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九二〇	大正9	2/10~	御霊文楽座	摂州合邦辻 合邦住家のどん(中叶、切越路=吉兵衛)。 ※「三十日間 三月十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	親合邦(文三)、合邦女房(玉五郎)、 玉手御前(栄三)、奴入平(紋三)、浅 香姫(簗助)、俊徳丸(玉七)。
△	一九二〇	大正9	7/4	中座	(摂州合邦辻) 合邦内(越路=吉兵衛)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	7/27	名古屋御園座	合邦 下(越路=吉兵衛)。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二〇	大正9	8/5	京都 南座	合邦	下(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	11/8 11/12	東京 有楽座	(摂州合邦辻)	(鏝=吉作)。 (静=芳之助)。 ※素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二〇	大正9	11/30	東京 日本橋茅場町薬師 地内宮松亭	合邦ヶ辻	※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男(辻町)文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
	一九二一	大正10	3/13~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦住家のだん(中町、切津=*友治郎)。 ※「二十四日間 四月五日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	親合邦(文三)、合邦女房(辰五郎)、 玉手御前(文五郎)、入平(玉治郎)、 浅香姫(簗助)、俊徳丸(玉八)。
△	一九二一	大正10	7/10	京都 南座	合邦辻	下の巻(八十=歌助)。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	7/20~24	東京 有楽座	(摂州合邦辻)	(古靱=清六)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二一	大正10	8/7	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦庵室の段(八十=歌助)。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二二	大正11	7/29	京都 中座	合邦	下(八十=八助)。 ※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	12/5	東京 新富座	(摂州合邦辻)	(鏝=団六)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二三	大正12	1/2~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦内のだん(中町、切伊達=*吉三郎)。 ※切場、後半は竹本鏡太夫代役(『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る)。 ※「二十七日間 二十八日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(徳丸)、玉手御前(文五郎)、奴入平(政亀)、浅香姫(太郎)、俊徳丸(玉八)。
△	一九二三	大正12	8/4	浪花座	(摂州合邦辻)	合邦内(伊達=吉三郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九二四	大正13	1/20~	京都 新京極文楽座	摂州合邦辻	合邦内のだん(切静=吉弥)。 ※「二月三日打上げ」(『義太夫年表 大正篇』)。	合邦(辰五郎)、ばゞ(三郎)、玉手御前(文五郎)、奴入平(兵十郎)、浅香姫(文之助)、俊徳丸(紋次郎)。
△	一九二四	大正13	7/16	中座	(摂州合邦辻)	合邦内(古靱=清六)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二四	大正13	8/20	京都 南座	摂州合邦辻	合邦内の段(古靱=清六)。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二五	大正14	7/12~13	神戸 松竹劇場	(摂州合邦辻)	(辰、古靱=清六)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二五	大正14	7/22~23	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦住家の段（古靱=清六）。 ※『御園座七十年史』に拠る。	合邦（玉蔵）、女房（玉七）、玉手御前（栄三）。
	一九二五	大正14	8/3~5	東京 歌舞伎座	摂州合邦辻	合邦住家の段（辰=団伊三、古靱=清六）。	合邦（玉蔵）、ばゝ（玉七）、玉手御前（栄三）、奴入平（政亀）、浅香姫（扇太郎）、俊徳丸（市松）。
△	一九二五	大正14	8/12	中座	（摂州合邦辻）	合邦（古靱=清六）。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二五	大正14	9/22~23	京都 南座	摂州合邦辻	合邦内（辰=金弥、古靱=清六）。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二五	大正14	10/1~	京都 新京極文楽座	摂州合邦辻	合邦内のだん（口綾=猿二郎、切鏝=新左衛門）。	親合邦（文三）、合邦女房（三郎）、玉手御前（小兵吉）、奴入平（光造）、朝香姫（万次郎）、俊徳丸（当次郎）。
	一九二五	大正14	10/31~	御霊文楽座	摂州合邦辻	合邦住家のだん（中鶴尾=*浅造、切古靱=清六）。 ※「二十四日間」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「摂州合邦辻は阪地に於て暫くその上演が禁止されたりしが此度解禁となりたるものなり」（『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る）。	親合邦（玉蔵）、合邦女房（玉七）、玉手御前（栄三）、奴入平（政亀）、浅香姫（簗助）、俊徳丸（松江）。
△	一九二五	大正14	12/6カ	高知	（合邦）	（鏝）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	1/29	京都 京都座	合邦	（文字=勝平）。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。竹本文字太夫襲名披露興行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二六	大正15	6/8	文具倶楽部	（摂州合邦辻）	（鷹=仁平）。 ※近松会第1回試演会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	6/26	京都 南座	摂津(マ)合邦辻	合邦住家の段（古靱=清六）。 ※文楽座引越し、豊竹古靱太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二七	昭和2	1/2~23	弁天座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中和泉=団六、切津=道八）。 ※千鶴楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。	親合邦（文三）、合邦女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（扇太郎）、俊徳丸（市松）。
△	一九二七	昭和2	2/23	朝日会館	（摂州合邦辻）	合邦（鏝=新左衛門）。 ※竹本源平太夫（元力士）断髪を兼ね披露会。舞台において師匠竹本源太夫が断髪式執行。 ※『浄瑠璃雑誌』第257号に拠る。	
△	一九二七	昭和2	3/28	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦住家の段（鏝）。 ※「新愛知」（3月27~28日）、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九二七	昭和2	7/1~2	京都 南座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中鏡=綱右衛門、切津=叶）。 ※「大阪朝日新聞（京都滋賀版）」（6月30日・7月3日の記事、7月5日の広告）、「京都市出新聞」（7月4日）に拠る。	玉手（文五郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		7/9~10	神戸 八千代座	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（中 播路=綱右衛門、切 津=叶）。 ※「神戸新聞」（7月8~9日の記事、7月8日の広告）に拠る。	（不明）	
		7/16~17	名古屋 新守座		合邦住家の段（中 播路、切 津=叶）。 ※「新愛知」（7月11~20日の記事、7月13~18・20日の広告）に拠る。	合邦（玉次郎）、玉手御前（文五郎）、 奴入平（門造）、浅香姫（扇太郎）。	
		7/23	豊橋 東雲座		合邦住家の段（大隅）。 ※大阪文楽座巡業（7月1~23日、京都・神戸・名古屋・豊橋）の内。 ※「参陽新報」（7月19~21日）、「豊橋新報」（7月20~23日）、「豊橋日日新聞」（7月20~22日の広告）に拠る。	（不明）	
△	一九二七	昭和2	8/28	東京 歌舞伎座	撮州合邦辻	合邦住家の段（津=叶）。 ※素浄瑠璃。	
△	一九二七	昭和2	12/1~16	地方公演 （九州・中国）	撮州合邦ヶ辻	（古靱）。 ※12月1~5日福岡・大博劇場、6~8日熊本・旭座（役割不明）、12日下関・弁天座（役割不明）、15~16日広島・寿座での公演を含む。 ※「大阪毎日新聞西部毎日（北九州版）」（12月2日）、「同（熊本版・山口版）」（12月9~10日・14日）、「同（長崎版）」（12月3日）に拠る。	（不明）
△	一九二七	昭和2	12/12	東京 宮戸座	合邦	下の巻（益=桑造）。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	
	一九二七	昭和2	12/19	浪花座	撮州合邦ヶ辻	下の巻（文字=勝平）。 ※若手素浄瑠璃。	
	一九二八	昭和3	1/2~8	京都 南座	撮州合邦辻	合邦住家の段（中 島=清二郎、切 津=友次郎）。 ※千種楽は「京都日出新聞」（1月8日）、「浄瑠璃雑誌」第265号に拠る。	親合邦（栄三）、合邦女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（門造）、浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（光之助）。
△	一九二八	昭和3	3/1~3	神戸 八千代座	撮州合邦辻	合邦住家の段（古靱=清六）。 ※「神戸新聞」（2月26・28~29日・3月1~6日の記事、2月28~29日・3月1~8日の広告）に拠る。	合邦（玉次郎）、玉手（栄三）。
		3/10~13	名古屋 御園座	合邦住家の段（中 滝=友之助、切 古靱=清六）。 ※大阪文楽座巡業（3月1~20日、神戸・名古屋・広島）の内。		親合邦（玉次郎）、合邦女房（玉七）、玉手御前（栄三）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（市松）。	
△	一九二八	昭和3	3/3	豊橋 東雲座	撮州合邦辻	合邦内の段（文字=勝平）。 ※素浄瑠璃。 ※「豊橋日日新聞」（3月2・4日の記事、3月2日の広告）、「豊橋新報」（3月2~4日の記事、3月2日の広告）、「参陽新報」（3月3~4日の記事、3月2日の広告）に拠る。	
△	一九二八	昭和3	3/19	文具倶楽部	（撮州合邦辻）	合邦（隅和=吉内）。 ※第4回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第268号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二八	昭和3	4/1~20	弁天座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中鏡=友之助//貴鳳=芳之助、切古鞆=清六）。 ※千鶴楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。	親合邦（玉松）、合邦女房（小兵吉）、 玉手御前（栄三）、奴入平（門造）、浅香姫（扇太郎）、俊徳丸（玉徳）。
△	一九二八	昭和3	5/13	土橋倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦（長子=八造）。 ※若芽会。 ※『浄瑠璃雑誌』第270号に拠る。	
△	一九二八	昭和3	5/26	兵庫 柏原劇場	（摂州合邦辻） 合邦（文字=勝平）。 ※『浄瑠璃雑誌』第270号に拠る。	
△	一九二八	昭和3	6/26	神戸 八千代座	（摂州合邦辻） 合邦（文字）。 ※若手幹部連の素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」（6月23~25日の記事、6月23~26日の広告）に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/3	金沢 尾山倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦（鏝=新左衛門）。 ※竹本土佐太夫一行巡業（7月1~13日、北陸）の内。素浄瑠璃。 ※「北国新聞」（6月28・30日・7月1・3~5日）に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/7~11	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻 合邦住家の段（中辰=勝三郎、切古鞆=清六）。	親合邦（玉次郎）、合邦女房（玉七）、 玉手御前（文五郎）、奴入平（玉幸）、 浅香姫（扇太郎）、俊徳丸（玉徳）。
△	一九二八	昭和3	7/14	神戸 八千代座	（摂州合邦辻） 合邦（鏝=新左衛門）。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」（7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告）に拠る。	
	一九二八	昭和3	8/19 8/21	浪花座	摂州合邦ヶ辻 合邦住家の段（島=浅造）。 合邦住家の段（和泉=友造）。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	
	一九二八	昭和3	9/1~3	京都 南座	摂州合邦辻 合邦住家の段（中源路=清二郎、切古鞆=清六）。	合邦（玉次郎）、合邦女房（玉七）、玉 手御前（栄三）、奴入平（門造）、浅香 姫（光之助）、俊徳丸（市松）。
	一九二八	昭和3	10/1~	弁天座	摂州合邦辻 合邦住家の段（切大隅=道八）。	親合邦（玉松）、合邦女房（玉七）、玉 手御前（栄三）、奴入平（門造）、浅香 姫（光之助）、俊徳丸（市松）。
△	一九二八	昭和3	10/26	東京 三越ホール	（摂州合邦辻） 合邦（巖=団左衛門）。 ※第1回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第300号に拠る。	
	一九二九	昭和4	3/2~18	弁天座	摂州合邦辻 合邦住家の段（中綾=寛市、切土佐=吉兵衛）。 ※千鶴楽は「大阪朝日新聞」（3月17日）に拠る。 ※竹本土佐太夫休演、竹本鏡太夫代演（『浄瑠璃雑誌』第278号に拠る）。	親合邦（玉松）、合邦女房（冠四）、玉 手御前（文五郎）、奴入平（兵十郎）、 浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（文作）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二九	昭和4	4/17	浜松座	(摂州合邦辻) 合邦(鏡=吉左)。 ※大阪文楽座巡業(4月16~22日、東海)の内。大阪文楽座浄瑠璃若手花形大一座。4月19日豊橋・東雲座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』、「参陽日報」(4月14~20日)、「新朝報」(4月14~15・17・20日)、「豊橋新報」(4月14・16~20日の記事、4月16日の広告)、「豊橋日日新聞」(4月14~20日の記事、4月16日の広告)に拠る。	
	一九二九	昭和4	6/3~4	名古屋御園座	撮州合邦辻 合邦住家の段(中 越名=友衛門、切 古靱=清六)。	親合邦(玉松)、合邦女房(冠四)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(文作)。
			6/7	豊橋東雲座	合邦住家の段。 ※「参陽新報」(5月26・29・31日・6月1~4・6~7日の記事、6月4・6日の広告)、「新朝報」(5月26・29・31日・6月1~5日の記事、6月4日の広告)、「豊橋新報」(5月24・26・29・31日・6月2・4~7日の記事、6月4・6日の広告)、「豊橋日日新聞」(5月29・31日・6月1~7日の記事、6月3・6日の広告)に拠る。	(不明)
			6/13~14	神戸八千代座	合邦住家(中 越名=友衛門、切 古靱=清六)。 ※大阪文楽座巡業(6月1~19日、東海・山陽)の内。 ※「神戸新聞」(6月10~15日の記事、6月9~15日の広告)に拠る。	合邦(玉松)、女房(冠四)、玉手(文五郎)、又平(門造)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(文作)。
△	一九二九	昭和4	8/8	長崎南座	(摂州合邦辻) 合邦住家(生島=仙二郎)。 ※竹本角太夫一行巡業(7月25日~8月14日、九州)の内。 ※「長崎日日新聞」(8月7~8日)、『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	9/8	名古屋新守座	(摂州合邦辻) 合邦住家の段(古靱=清六)。 ※素浄瑠璃。 ※「新愛知」(9月3~8・10~11日の記事、9月6~7・9・11日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
			9/18~19	神戸八千代座	撮州合邦ヶ辻 合邦内の段(中 辰=団伊三、切 古靱=清六)。 ※「神戸新聞」(9月11~15・17~18日の記事、9月13~19日の広告)に拠る。	親合邦(玉松)、合邦妻(玉七)、玉手(文五郎)、入平(門造)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(市松)。
			9/23	高松聚楽座	撮州合邦辻 合邦内の段(中 辰=団伊三、切 古靱=清六)。 ※大阪文楽座巡業(9月7~23日、名古屋・神戸・高松)の内。 ※「香川新報」(9月19~23日の記事、9月20~21・23日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九二九	昭和4	10/6	東京並木倶楽部	(摂州合邦辻) 合邦。 ※歌声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
	一九二九	昭和4	12/5~7	東京新橋演舞場	撮州合邦辻 合邦内の段(切 大隅=道八)。	親合邦(玉松)、合邦女房(冠四)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(光之助)、俊徳丸(市松)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三〇	昭和5	2/7~	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦内の段（中 鏡=綱右衛門、切 古靱=清六）。 ※24日間公演。10日目まで豊竹古靱太夫休演、豊竹つばめ太夫代演（『義太夫年表 昭和篇』）。	親合邦（栄三）、合邦女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（門造）、浅香姫（扇太郎）、俊徳丸（市松）。
△	一九三〇	昭和5	3/2	東京 電気倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦庵室の段（巖=吉作）。 ※鶴沢重二郎、竹本津賀太夫門となり竹本東太夫と改名披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	3/14	東京 三越ホール	（摂州合邦辻） 合邦内の段（越栄=松四郎）。 ※第15回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	3/29	浅草 並木倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦内の段（米喜=猿一）。 ※第1回浄瑠璃研声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第289・290号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	4/8	豊竹古靱太夫宅	摂州合邦ヶ辻 合邦内の段（合邦一照・母親一花房(マ)・俊徳一小松・浅香一宮・入平一おぼこ・玉手一辰=吉左）。 ※燕巢会。 ※『浄瑠璃雑誌』第290号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	5/20	東京 甲子屋倶楽部	摂州合邦辻 合邦庵室の段（玉手御前一巖・奴入平一殿母・俊徳丸一東・浅香姫一都・母一滝・合邦一和国=紋左衛門）。 ※第17回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第291号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	8/18	東京 東京劇場	摂州合邦辻 合邦内の段（古靱=清六）。 ※素浄瑠璃。	
△	一九三〇	昭和5	12/2	四日市 湊 座	（摂州合邦辻） 合邦（島=綱右衛門）。 ※文楽座若手人形浄瑠璃。桐竹門造後見女兒一人遣い人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第298号に拠る。	
△	一九三一	昭和6	6/28	市 村 座	（摂州合邦辻） 合邦（巖=桑造）。 ※豊竹巴磨太夫改め七代豊竹巴太夫襲名披露会。 ※『浄瑠璃雑誌』第304号に拠る。	
	一九三一	昭和6	7/5~6	京都 南 座	摂州合邦辻 合邦内の段（切 大隅=道八）。	親合邦（栄三）、女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（門造）、浅香姫（文作）、俊徳丸（市松）。
	一九三一	昭和6	8/1~19	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻 合邦内の段（中 島=芳之助/吉左//つばめ=綱右衛門/猿太郎、切 古靱=清六）。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉松）、浅香姫（扇太郎）、俊徳丸（紋十郎）。
△	一九三一	昭和6	秋	兵庫 兵庫倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦（播路=団二郎）。 ※青年太夫浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第307号に拠る。	
	一九三一	昭和6	9/1~7	東京 帝国劇場	摂州合邦辻 合邦内の段（中 辰=団伊三、切 古靱=清六）。	親合邦（玉松）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（瓢寿呂）、浅香姫（徳三郎）、俊徳丸（玉市）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三一	昭和6	10/10	広島 寿座	(摂州合邦辻) 合邦(大隅=道八)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(10月1~18日、九州・山陽・四国)の内。10月18日徳島・稲荷座で同公演あり。 ※「中国新聞」(10月2・9~10日の記事、10月2・6・8日の広告)、「大阪朝日新聞(徳島版)」(10月13日)、「徳島毎日新聞」(10月15~17日)、『浄瑠璃雑誌』第306号に拠る。	
	一九三一	昭和6	12/1~4	東京 明治座	摂州合邦辻 合邦内の段(中文=綱右衛門、切津=綱造)。	親合邦(栄三)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(玉市)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(市松)。
	一九三二	昭和7	1/31~2/21	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻 合邦内の段(中駒=重造、切津=綱造)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。 ※竹本津太夫休演、豊竹駒太夫代演の日あり(『義太夫年表 昭和篇』)。 ※2月7日、NHKラジオ舞台中継(『文楽興行記録昭和篇』に拠る)。	親合邦(栄三)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(扇太郎)、俊徳丸(市松)。
△	一九三二	昭和7	5/8	名古屋 御園座	(摂州合邦辻) 合邦住家(駒=重造)。 ※竹本綴太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九三二	昭和7	5/23~24	神戸 松竹劇場	摂州合邦辻 合邦内の段(中島改め呂=叶、切津=綱造)。	親合邦(栄三)、合邦女房(小兵吉)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(文作)、俊徳丸(玉徳)。
△	一九三二	昭和7	6/9	博多 大博劇場	摂州合邦ヶ辻 合邦内の段(中相生=清二郎、切津=綱造)。 ※大阪文楽座巡業(6月4~15日、山陽・九州)の内。6月5日広島・寿座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	合邦(栄三)、女房(小兵吉)、玉手(文五郎)、入平(玉松)、浅香(文作)、俊徳(光之助)。
	一九三二	昭和7	6/21~23	京都 南座	摂州合邦辻 合邦内の段(中相生=清二郎、切津=綱造)。	親合邦(栄三)、合邦女房(小兵吉)、玉手御前(文五郎)、奴入平(玉松)、浅香姫(文作)、俊徳丸(光之助)。
△	一九三二	昭和7	8/5~6	京都 京都座	摂州合邦辻 合邦内の段(呂=綱右衛門)。 ※「京都市出新聞」(7月29・31日・8月2~3・5~7日)に拠る。	親合邦(門造)、合邦女房(玉七)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(文作)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(紋司)。
			8/7	岐阜 松竹座	(呂=綱右衛門)。 ※「大阪朝日新聞(岐阜版)」(8月5日)に拠る。	合邦(門造)、合邦女房(玉七)、玉手御前(紋十郎)、浅香姫(紋太郎)。
			8/11~12	名古屋 御園座	合邦内の段(呂=綱右衛門)。 ※文楽座若手連五人会(竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹本南部太夫・竹本小春太夫)巡業(8月1日~下旬、近畿・東海)の内。 ※「新愛知」(8月9~13・15~16日)、『御園座七十年史』に拠る。	合邦女房(玉七)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(文作)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(紋司)。
	一九三二	昭和7	10/26	東京 東京劇場	摂州合邦辻 合邦内の段(古靱=清六)。 ※素浄瑠璃。	

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三二	昭和7	12/2	広島 寿座	(摂州合邦辻)	合邦(つばめ=芳之助)。 ※大阪文楽座若手連巡業(12月1日～、広島・九州)の内。 ※「中国新聞」(11月27日の記事、11月23・30日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/4	赤坂 並木倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦内(中 富司=松亮、切 湊=猿平)。 ※大日本義太夫因会吉例大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/13	四ツ橋文楽座	(摂州合邦辻)	合邦(津=綱造)。 ※英彦山国立公園運動寄附公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/19	今治 和泉座	(摂州合邦辻)	合邦(津=綱造)。 ※竹本津太夫一行巡業(12月16～24日、四国)の内。12月23日高松・大衆座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号、「海南新聞」(12月16日)、「香川新報」(12月20日)に拠る。	
△	一九三三	昭和8	2/19	浅草 並木倶楽部	(摂州合邦辻)	(掛合 合邦一巖・女房一津弥・玉手一東・俊徳丸一音羽・浅香姫+入平一湊=前 新造、後 猿二郎)。 ※第11回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第321号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	2/21～22	京都 岡崎公会堂	(摂州合邦辻)	合邦(一日替 つばめ/鏡=吉左)。 ※第2回雁金会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九三三	昭和8	3/5～14	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦内の段(千駒=八造、つばめ=友衛門)。 ※文楽若手特別興行。 ※『浄瑠璃雑誌』第322号には「第一回より第三回まで入替り三日間宛」とあり、その配役は、第一回が(千駒=八造、つばめ=友衛門)、第二回が(長子=団伊三、呂=綱右衛門)、第三回が(綾=喜代之助、鏡=芳之助)。	親合邦(栄三)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(文作)、俊徳丸(栄三郎)。
△	一九三三	昭和8	6/24	高知 堀詰座	(摂州合邦辻)	合邦住家の段(つばめ=芳之助)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22～26日、高知)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/6	大紙倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦(駒尾=吉季)。 ※くつわ会。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/14～	地方公演 (九州)	(摂州合邦辻)	合邦(津=綱造)。 ※竹本津太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/24～25	神戸 松竹劇場	(摂州合邦辻)	合邦(つばめ)。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第326号、「神戸新聞」(7月20～23日の記事、7月22日の広告)に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三三	昭和8	8/21~23	京都 南座	撮州合邦辻	合邦内のだん（つばめ=友衛門）。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、 玉手御前（文五郎）、奴入平（門造）、 浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（栄三郎）。
△	一九三三	昭和8	9/27	奈良 新温泉	撮州合邦辻	下ノ巻 合邦内之段（小松=仙三郎）。 ※川口家追善浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第327号、『綱大夫四季』に拠る。	
△	一九三三	昭和8	11/25	京都 六角会館	合邦ヶ辻	下の巻（陸路=新太郎）。 ※京都婦人慈善教会主催、慈善文楽会。 ※「大阪朝日新聞（京都版）」（11月24日）に拠る。	
△	一九三三	昭和8	12/1~3	東京 歌舞伎座	撮州合邦ヶ辻	合邦住家の段（中呂=叶、切古靱=清六）。	親合邦（栄三）、合邦女房（玉七）、玉 手御前（文五郎）、奴入平（門造）、浅 香姫（扇太郎）、俊徳丸（紋十郎）。
△	一九三四	昭和9	1/31	東京 甲東俱樂部	（撮州合邦辻）	合邦住家（扇賀=好造）。 ※相模太夫一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第331号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	2/4~14	地方公演 （東海）	撮州合邦辻	合邦住家の段（中宮=勝芳、切古靱=重造）。 ※豊竹古靱太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号、「豊橋日日新聞」（2月1~9日）、「新 愛知」（2月9~11・13~19日）に拠る。	合邦（玉幸）、合邦女房（玉七）、玉手 御前（紋十郎）、奴入平（玉徳）、浅香 姫（文作）、俊徳丸（光之助）。
△	一九三四	昭和9	2/14	東京 三越ホール	撮州合邦ヶ辻	（巖=猿造）。 ※第37回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	2/24	茨木町 日吉座	（撮州合邦辻）	合邦内の段（千駒=稲丸）。 ※豊竹千駒太夫父師追善。千駒太夫亡父津田一声並びに幼時の師匠 故土口軒の追善浄瑠璃会。桐竹門造指導人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第330・331号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	3/28	福井 加賀屋座	撮州合邦ヶ辻	（駒尾=新太郎）。 ※桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	4/20	大手前国民会館	（撮州合邦辻）	合邦（駒尾=広二）。 ※第2回花菱会。少女人形入。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三四	昭和9	4/24	四天王寺本坊	撮州合邦辻	合邦内の段（合邦一大隅・母親一呂・俊徳丸一辰・浅香姫一隅栄・ 入平一むら・玉手御前一つばめ=芳之助）。 ※日本因会主催供養浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号、「大阪朝日新聞」（4月20日）に拠る。	
△	一九三四	昭和9	5/23	山口下松町 大黒座	（撮州合邦辻）	合邦（陸路=吉房）。 ※竹本陸路太夫一行巡業（5月23~30日、山口）の内。5月27日厚狭 町・厚狭クラブで同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三四	昭和9	6/26	福井大野町 亀山座	(摂州合邦辻)	摂州合邦内の段(駒尾=勝之介)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(6月23~27日、福井)の内。6月23日敦賀町・敦賀座、6月24日武生町・武生座、6月25日三国町・湊座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	
	一九三四	昭和9	7/4~6	京都 南座	摂州合邦辻	合邦住家の段(中辰=新太郎、切古鞆=清六)。	親合邦(栄三)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(文作)、俊徳丸(栄三郎)。
	一九三四	昭和9	8/6~8	東京 明治座	摂州合邦辻	合邦住家の段(呂=芳之助)。	親合邦(栄三)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(文作)、俊徳丸(栄三郎)。
△	一九三四	昭和9	8/8	満州 撫順筑紫館広間	(摂州合邦辻)	合邦(佐)。 ※竹本叶太夫一行巡業(7月25日~、満州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	9/15	堀江演舞場本館	(摂州合邦辻)	合邦内(千駒=友駒)。 ※花菱会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	9/15	東京 歌舞伎座前木村屋 別館	(摂州合邦辻)	合邦(益=好造)。 ※鶴沢司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	10/1	東京 電気倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦(前岬=団七、奥近衛=団市)。 ※第1回東京義太夫新興会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	11/24	和歌山 紀国座	(摂州合邦辻)	合邦(隅栄=新太郎)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	
△	一九三五以前	昭和10以前		東京 歌舞伎座	(摂州合邦辻)	(津)。 ※素浄瑠璃。 ※三宅周太郎『続文楽の研究』所収の昭和10年7月東京明治座評(「批評と追悼「逆輸入」物の悲哀」)に拠る。	
	一九三五	昭和10	4/6~9 4/10~12 4/13~15	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段(小松=友駒、和泉=友造)。 合邦住家の段(津の子=綱治、相生=重造)。 合邦住家の段(さの=新太郎、呂=友衛門)。 ※若手連特別興行。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(政亀)、玉手御前(文五郎)、奴入平(玉市)、浅香姫(光之助)、俊徳丸(文作)。
△	一九三五	昭和10	6/1	福岡 大博劇場	摂州合邦辻	合邦家の段(古鞆=重造)。 ※豊竹古鞆太夫一行巡業(5月28日~6月14日、山陽・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	(不明)
△	一九三五	昭和10	6/15	和歌山 和歌山市公会堂日 本館	(摂州合邦辻)	(津=綱造)。 ※竹本津太夫一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三五	昭和10	7/1~4	東京 明治座	撮州合邦辻	合邦内の段（中呂=叶、切津=綱造）。	親合邦（玉蔵）、合邦女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
△	一九三五	昭和10	7/26~28	満州 大連劇場	（撮州合邦辻）	合邦（津）。 ※皇軍在満同胞慰問興行（7月23日~8月12日、満州）の内。8月1日奉天劇場、8月3日新京公会堂、8月11~12日京城で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	（不明）
△	一九三五	昭和10	8/24	浪花座	（撮州合邦辻）	合邦（駒=清二郎）。 ※文案若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」（8月21日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
	一九三五	昭和10	9/20~22	京都 南座	撮州合邦辻	合邦内の段（相生=清二郎）。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉市）、浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（栄三郎）。
	一九三五	昭和10	10/1~	四ツ橋文楽座	撮州合邦辻	合邦内の段（切録=新左衛門、大隅=道八）。	親合邦（栄三）、合邦女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉市）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
△	一九三五	昭和10	12/5	東京 並木倶楽部	（撮州合邦辻）	合邦内（一登=団市）。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	
△	一九三五	昭和10	12/20~21	神戸 松竹劇場	撮州合邦辻	合邦住家の段（古鞠）。 ※「神戸新聞」（12月16・19~21日の記事、12月17・20・22日の広告）に拠る。	合邦（栄三）、玉手（文五郎）。
△	一九三六	昭和11	2/1	大垣 日吉座 〈新義座〉	（撮州合邦辻）	合邦（つばめ=団二郎）。 ※桐竹門造指導乙女人形入。2月5日美濃・関座、2月9日名古屋・中座、2月11日四日市・港座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	2/3	松本 建国座 〈新義座〉	撮州合邦ヶ辻	合邦住家の段。 ※「信濃毎日新聞」（1月30日）に拠る。	（不明）
			2/5	長野 菊田劇場 〈新義座〉	（撮州合邦辻）	合邦（古鞠）。 ※大阪文楽座巡業（2月2~10日、長野・愛知・静岡）の内。 ※「信濃毎日新聞」（2月1日）に拠る。	（不明）
△	一九三六	昭和11	4/4~5	名古屋 御園座	撮州合邦ヶ辻	合邦内（駒=重造）。 ※大阪文楽座巡業（4月2日~、東海）の内。 ※「新愛知」（3月26・28~29日・4月1~3・5・7日の記事、3月27・30~31日・4月1・6日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	（不明）
△	一九三六	昭和11	4/15~17	神戸 松竹劇場	撮州合邦辻	合邦住家の段（中長尾=寛市、切津=綱造）。 ※「神戸新聞」（4月9・12・15~16日の記事、4月10・15日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	合邦（栄三）、女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、入平（玉蔵）、浅香姫（紋十郎）、俊徳丸（玉幸）。

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三六	昭和11	5/3～	地方公演 (中国・九州)	摂州合邦ヶ辻	(切 大隅=広助)。 ※竹本鏝太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第349号に拠る。	合邦(玉徳)、女房(玉七)、玉手(文五郎)、入平(玉市)、浅香(栄三郎)、俊徳(紋太郎)。
	一九三六	昭和11	7/28～30	東京 歌舞伎座	摂州合邦辻	合邦住家の段(切 鏝=新左衛門)。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(多三郎)、玉手御前(文五郎)、奴入平(玉徳)、浅香姫(光之助)、俊徳丸(文作)。
△	一九三六	昭和11	8/28	京都 京都朝日会館 〈新義座〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内段(つばめ=団二郎)。 ※新義座第1回公演。素浄瑠璃。 ※「大阪朝日新聞(京都版)」(8月25・27～28日)、『浄瑠璃雑誌』第351・352号に拠る。	
	一九三六	昭和11	9/1～3	京都 南座	摂州合邦辻	合邦住家の段(切 大隅=清二郎)。	親合邦(栄三)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(光之助)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(玉市)。
△	一九三六	昭和11	10/10	釜山 釜山劇場 〈新義座〉	摂州合邦ヶ辻	※大阪文楽新義座巡業(10月10日～12月、満州・九州・中国・四国)の内。乙女人形入。 ※「大阪朝日新聞(朝鮮版)」(10月6日)に拠る。	
△	一九三六	昭和11	11/27	大紙倶楽部	摂州合邦ヶ辻	合邦庵室(掛合 合邦一富・玉手一播路・俊徳丸一辰・母親一隅 栄・浅香姫一津の子・入平一隅若=友造)。 ※競義会(素語り会)。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	12/7	上海 東劇	(摂州合邦辻)	合邦住家(駒尾=新之助)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(12月7～11日、上海)の内。上海皇軍慰問公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	12/19	京都 京都朝日会館	(摂州合邦辻)	合邦内の段(隅栄=寛若)。 ※国粋古典芸術鑑賞会「忘年浄瑠璃の夕」。 ※「京都日出新聞」(12月9日)に拠る。	
△	一九三七	昭和12	2/17	徳島 徳島温泉劇場 〈新義座〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段(つばめ=団二郎)。 ※新義座巡業(1月19日～3月中旬、東海・関東・東北・北陸・四国・中国)の内。乙女人形入。 ※「徳島毎日新聞」(2月9・15～18日)に拠る。	
△	一九三七	昭和12	3/1～5	東京 小石川倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦(浪花=猿平)。 ※第1回日本帝都因会奨励会。5日間演題毎日順廻り。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、『浄瑠璃時報』第177・178号に拠る。	
	一九三七	昭和12	4/2～	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段(中 富=吉左//辰=八造//千駒=団伊三、切 駒=清二郎)。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(小兵吉)、玉手御前(文五郎)、奴入平(玉市)、浅香姫(光之助)、俊徳丸(紋太郎)。
△	一九三七	昭和12	4/2	東京 飛行会館	(摂州合邦辻)	合邦(巖=松四郎)。 ※日本帝都義太夫因会春季公演大会。 ※『浄瑠璃時報』第179号では別演目になっている。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号に拠る。	

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三七	昭和12	5/9	岡山 岡山劇場 〈新義座〉	(摂州合邦辻)	合邦(つばめ)。 ※「山陽中国合同新聞」(5月7・9日)に拠る。	
△	一九三七	昭和12	5/19	新町演舞場	摂州合邦辻 下の巻	合邦内の段(玉手御前一和泉・母親一千駒・俊徳丸一駒若・浅香姫一常子・入平一陸路・合邦一長尾=前寛市、奥喜代之助)。 ※鶴沢綱右衛門追善会。 ※『浄瑠璃雑誌』第361号に拠る。	
	一九三七	昭和12	6/1~4	東京 明治座	摂州合邦辻	合邦住家の段(中長尾=吉左、切津=綱造)。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)、奴入平(栄三郎)、浅香姫(光之助)、俊徳丸(玉徳)。
△	一九三七	昭和12	6/3	仙台 歌舞伎座 〈新義座〉	(摂州合邦辻)	合邦(つばめ=猿糸)。 ※6月21日福島・会津若松劇場、6月26日金沢・尾山倶楽部で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「北国新聞」(6月25~27日)に拠る。	
			6/16	新潟 新潟劇場 〈新義座〉		合邦(つばめ=団二郎)。 ※大阪新義座巡業(6月1日~末、関東・東北・北海道・上越・北陸・東海)の内。乙女人形入。6月29日大垣・日吉座で同公演あり。 ※「新潟新聞」(5月18・30日・6月6日の記事、6月15日の広告)、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三七	昭和12	8/10	今里演舞場	(摂州合邦辻)	合邦(駒若=市松)。 ※若手献金興行。桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第364号、『浄瑠璃時報』第190号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	9/13~14	名古屋 御園座	摂州合邦辻	(古靱=清六)。 ※大阪文楽座巡業(9月11~19日、東海)の内。 ※『浄瑠璃時報』第191号、『御園座七十年史』、「新愛知」(9月1~5・8~12・14・16日の記事、9月4・8~16日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九三七	昭和12	10/5~7	京都 弥栄会館	摂州合邦辻	合邦住家の段(前相生=清二郎、後文字=広助)。 ※「京都日出新聞」(9月24~26日・10月3・5日)、「京都日日新聞」(9月29日・10月3日)、「大阪朝日新聞(京都版)」(10月5日)、『浄瑠璃時報』第192号に拠る。	親合邦(玉幸)、合邦女房(玉七)、玉手御前(文五郎)。
	一九三七	昭和12	10/10~17	北陽演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段(前呂=友衛門、後相生=道八)。 ※『浄瑠璃時報』第192号では千穂楽は15日。	親合邦(栄三)、合邦女房(政亀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(門造)、浅香姫(栄三郎)、俊徳丸(文作)。
△	一九三七	昭和12	10/19	大紙倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦庵室(竹=市松)。 ※床世話救援会。 ※『浄瑠璃雑誌』第365号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	10/24	北陽演舞場 〈新義座〉	摂州合邦辻	合邦内(つばめ=団二郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第365号、『浄瑠璃時報』第193号、『太棹』第90号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三七	昭和12	11/28	京都 京都朝日会館	摂州合邦辻 合邦住家の段（大隅＝寛治郎）。 ※古典芸術鑑賞会主催「文楽浄瑠璃の夕」。 ※「大阪朝日新聞（京都版）」（11月12・19日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	1/28	東京 東京劇場	（摂州合邦辻） 合邦（相生＝道八）。 ※大阪文楽座義太夫若手花形特別公演。素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「東京朝日新聞」（1月26日の広告）に拠る。	
	一九三八	昭和13	2/4～13	新町演舞場	摂州合邦辻 合邦住家の段（中辰＝寛市//竹＝八造//宮＝団伊三、切古鞠＝重造）。 ※豊竹古鞠太夫休演、豊竹呂太夫代役（『浄瑠璃雑誌』第368号に拠る）。	親合邦（栄三）、合邦女房（玉七）、玉手御前（文五郎）、奴入平（門造）、浅香姫（栄三郎）、俊徳丸（文作）。
△	一九三八	昭和13	2/10	東京 鈴木演芸場	（摂州合邦辻） 合邦（巖＝新造）。 ※第2回義太夫会。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、『太棹』第94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	2/21～23	京都 弥栄会館	摂州合邦辻 合邦内の段（切津＝綱造）。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「京都日出新聞」（2月12・18・20～21・23日）、「京都日日新聞」（2月21日）、「大阪朝日新聞（京都版）」（2月22日の記事、2月17日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九三八	昭和13	4/20	台湾 栄座 〈新義座〉	摂州合邦ヶ辻 合邦内の段（陸路＝徳若）。 ※大阪新義座巡業（4月20日～、台湾）の内。 ※「台湾日日新報」（4月17・19～20日の記事、4月20日の広告）、 『浄瑠璃雑誌』第369号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/20	高知 堀詰座	合邦辻 下の巻（駒若＝吉季）。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」（6月13・15～16・19～23日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/23	下関 弁天座 〈新義座〉	摂州合邦辻 合邦住家の段。 ※大阪新義座巡業（6月23日～7月8日、下関・満州）の内。乙女人形入。 ※「関門日日新聞」（6月23日）に拠る。	
	一九三八	昭和13	7/8～10	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻 合邦住家の段（前相生＝道八//呂＝叶、後つばめ改織＝団二郎改団六）。	親合邦（玉蔵）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉市）、浅香姫（栄三郎）、俊徳丸（文作）。
△	一九三八	昭和13	7/26	ラジオ放送	摂州合邦辻 合邦庵室の段（鏝＝新左衛門）。 ※放送時間の都合で後半は省略。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（7月26日）、『太棹』第99号に拠る。	
	一九三八	昭和13	9/23～25	東京 明治座	摂州合邦辻 合邦住家の段（切大隅＝広助）。	親合邦（玉蔵）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉市）、浅香姫（玉徳）、俊徳丸（玉幸）。
△	一九三八	昭和13	9/30	東京 第一徴兵保険会社 講堂	摂州合邦辻 合邦内（巖＝猿蔵）。 ※第1回素玄連合浄曲研究会。 ※『太棹』第99号、『浄瑠璃雑誌』第373・375号に拠る。	

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三八	昭和13	10/7	函館 吉野演芸場 〈新義座〉	合邦ヶ辻	(陸路)。 ※大阪新義座巡業(9月中旬~10月下旬、東北・北海道)の内。 ※「函館新聞」(9月27日・10月8日の記事、10月4~9日の広告)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/15	浅草 並木倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦(掛合 玉手一弥国・入平一麗・母一稲・合邦一駒登=桑造)。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第99号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	12/19	ラジオ放送	摂州合邦辻	合邦内の段(織=団六)。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」(12月19日)に拠る。	
△	一九三九	昭和14	1/26	東京 日本橋倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦(杣=松市郎)。 ※東京南北座初春興行。 ※『太棹』第101号に拠る。	合邦(国五郎)、玉手(池田三国)、浅香姫(国三郎)、俊徳丸(高瀬弦之丞)。
	一九三九	昭和14	2/4~5	京都 南座	摂州合邦辻	合邦住家の段(前 駒=清二郎、切 大隅=広助)。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(政亀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(門造)、浅香姫(紋太郎)、俊徳丸(玉市)。
△	一九三九	昭和14	2/13~14	神戸 松竹劇場	摂州合邦辻	合邦内の段。 ※「神戸新聞」(2月9・14~15日の記事、2月7日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九三九	昭和14	2/18	広島 新天劇場	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段。 ※2月23日下関・弁天座(合邦内の段・役割不明)で同公演あり。 ※「中国新聞」(2月13・17日の広告)、「関門日日新聞」(2月16・18~23日の記事、2月23日の広告)に拠る。	(不明)
			2/20	福岡 大博劇場		(鏝)。 ※文楽座一行巡業(2月17~23日、広島・博多・山口)の内。 ※「九州日報」(2月19・21~23・25日)に拠る。	(不明)
	一九三九	昭和14	3/24~26	東京 明治座	摂州合邦辻	合邦住家の段(中 富太郎改め 伊勢=仙糸、切 古靱=重造)。	親合邦(栄三)、合邦女房(小兵吉)、玉手御前(文五郎)、奴入平(門造)、浅香姫(栄三郎)、俊徳丸(政亀)。
	一九三九	昭和14	8/17~20	東京 明治座	摂州合邦辻	合邦住家の段(中 文=喜代之助、切 津=重造)。	親合邦(玉蔵)、合邦女房(紋太郎)、玉手御前(文五郎)、奴入平(玉市)、浅香姫(栄三郎)、俊徳丸(玉徳)。
△	一九三九	昭和14	9/6	名古屋 御園座	(摂州合邦辻)	合邦(大隅=広助)。 ※『浄瑠璃雑誌』第382号、『御園座七十年史』、「新愛知」(9月1~3・5~6日の記事、9月1~7日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九三九	昭和14	12/14	東京 日本橋倶楽部	(摂州合邦辻)	合邦(東=猿三郎)。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第109・110号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	1/26	東京 日本橋倶楽部	摂州合邦辻	住吉(松江=和孝)、合邦住家(浪江=団七、都=桑造)。 ※南北座初春公演。 ※『太棹』第111号に拠る。	合邦(吉田国五郎)、玉手(池田三国)、俊徳丸(高瀬弦之丞)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四〇	昭和15	3/1~	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻 合邦内の段（相生＝道八//織＝団六、切 駒＝清二郎//録＝寛治郎）。 ※3月12日ラジオ中継放送。配役は（織＝団六）（「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（3月12日）、『太棹』第113号に拠る）。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（玉市）。
△	一九四〇	昭和15	5/9	東京 日本橋倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦（浪花＝猿平）。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第114号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	7/23~25	京都 南 座	摂州合邦辻 合邦住家の段（呂＝吉左、切 文字＝寛治郎）。 ※「京都市出新聞」（7月14・18~20日の記事、7月16・25日の広告）、「京都日日新聞」（7月23~24日）、『昭和の南座 資料編（上）』に拠る。	合邦（栄三）、玉手御前（文五郎）。
△	一九四〇	昭和15	8/5~8	東京 明治 座	摂州合邦辻 合邦住家の段（前 相生＝吉五郎、切 大隅＝広助）。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（門造）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
△	一九四〇	昭和15	9/22	大連 小崗子不老街福興 舞台	（摂州合邦辻） 合邦住家の段（樋口万華＝友衛門）。 ※文楽座巡業（9月、大陸）の内。9月4日満州・京城府民館（場割役割不明）、9月8日満州荻町・奉天記念会館（合邦住家の段、役割不明）で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第393号、『太棹』第119号、「京城日報」（9月1日の記事、9月4日の広告）、「満州日日新聞」（9月7~8日の記事、9月4~7日の広告）に拠る。	合邦（玉幸）、女房（紋太郎）、玉手（紋十郎）、入平（玉徳）。
△	一九四〇	昭和15	9/23カ	東京 新橋演舞場	（摂州合邦辻） （津＝寛治郎）。 ※「朝日新聞（東京版）」（9月20~22・25~27日の広告）、「報知新聞」（9月20~27日の広告）、「東京日日新聞」（9月25日の記事、9月22日の広告）、『太棹』第118号、『浄瑠璃雑誌』第394・395号、三宅周太郎『続文楽の研究』に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	10/8	東京 日本橋倶楽部	（摂州合邦辻） 合邦（駒登＝扇之助）。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第119号、『浄瑠璃雑誌』第394号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	12/1~	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻 合邦住家の段（前 駒＝清二郎、切 津＝寛治郎）。 ※12月5日西園寺公国葬のため劇場休場（「大阪毎日新聞」（12月3日）、「朝日新聞（大阪版）」（12月5日）に拠る）。 ※12月9日ラジオ中継放送。庵室の段（津＝寛治郎）（「朝日新聞（大阪版）」「朝日新聞（東京版）」（12月9日）に拠る）。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉市）、浅香姫（栄三郎）、俊徳丸（紋太郎）。
△	一九四一	昭和16	6/1~22	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻 合邦住家の段（切 叶＝寛治郎//角＝広助、後 陸路改め 七五三＝綱造）。 ※竹本陸路太夫改め二代竹本七五三太夫襲名披露。 ※千鶴楽は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	親合邦（玉蔵）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
△	一九四一	昭和16	6/18	ラジオ放送	摂州合邦辻 合邦住家の段（叶＝寛治郎）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「朝日新聞（東京版）」（6月18日）、『太棹』第127号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四一	昭和16	7/6~10	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 相生=吉五郎//織=団六、後 陸路改め 七五三=綱造）。	親合邦（門造）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉市）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
一九四一	昭和16	8/1~3	京都 南 座	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 大隅=清二郎、後 陸路改め 七五三=綱造）。	親合邦（栄三）、合邦女房（政亀）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
△	一九四一	昭和16	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 大隅=清二郎、後 陸路改め 七五三=綱造）。 ※『御園座七十年史』、「新愛知」（8月2・6・12日の記事、8月5・11・13日の広告）に拠る。	合邦（栄三）、女房（政亀）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（文作）。
△	一九四一	昭和16	東京 国民新劇場	（摂州合邦辻）	合邦（弥国=絃平）。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	玉手（池田三国）。
一九四一	昭和16	11/29~12/3	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 小松改め つばめ=友衛門、切 古靱=清六）。 ※小松太夫改め三代豊竹つばめ太夫襲名披露。 ※親合邦の左は吉田光之助、足は桐竹紋次（『浄瑠璃雑誌』第420号に拠る）。	親合邦（栄三）、合邦女房（政亀）、玉手御前（文五郎）、奴入平（紋司）、浅香姫（光之助）、俊徳丸（玉幸）。
一九四二	昭和17	3/1~22	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 源=叶太郎、切 古靱=清六）。 ※千鶴楽は「大阪毎日新聞」「朝日新聞（大阪版）」（3月16・20日の広告）に拠る。	親合邦（栄三）、合邦女房（政亀）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（亀松）、俊徳丸（玉市）。
△	一九四二	昭和17	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 隅若=清友、切 呂=吉季）。	合邦（門造）、母親（玉幸）、玉手御前（光之助）、入平（紋司）、浅香姫（門次）、俊徳丸（紋太郎）。
		3/24			合邦住家の段（中 隅若=友三郎、前 千駒=叶太郎、後 源=友造）。 ※日本因協会若手技芸奨励会第1回演奏会。 ※『文楽芸術』第8号に拠る。	合邦（玉幸）、母親（門造）、玉手御前（亀松）、入平（栄三郎）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（紋太郎）。
△	一九四二	昭和17	四ツ橋文楽座	摂州合邦ヶ辻	（中 隅若=清友、切 古靱=清六）。 ※大阪市・人形浄瑠璃協会共同主催。郷土芸術の粋である文楽への理解を深め併せて文化向上の一助とするため全市町会役員約四千名を招待。 ※『文楽芸術』第7号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	住吉区昭和町 ライトハウス	（摂州合邦辻）	合邦（利根=幸市）。 ※義太夫箏曲鑑賞会。 ※『浄瑠璃雑誌』第410号に拠る。	
一九四二	昭和17	7/1~5	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 相生=吉五郎、後 七五三=綱造）。	親合邦（玉蔵改め 玉造）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋司）、俊徳丸（栄三郎）。
△	一九四二	昭和17	ラジオ放送	摂州合邦辻	合邦内の段（織=団六）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「朝日新聞（東京版）」（10月23日）に拠る。	

## 「摂州合邦辻」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四二	昭和17	12/22~27	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 織＝観西翁、後 呂＝仙糸）。	親合邦（門造）、合邦女房（政亀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉助）、浅香姫（栄三郎）、俊徳丸（紋司）。
一九四三	昭和18	2/28~	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 呂＝仙糸、後 織＝団六）。 ※吉田光之助改め三代吉田光造襲名披露。	親合邦（門造）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（光之助改め 光造）、奴入平（亀松）、浅香姫（栄三郎）、俊徳丸（紋司）。
一九四三	昭和18	7/11~15	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 雛／つばめ＝友衛門、切 古靱＝清六）。	親合邦（栄三）、合邦女房（政亀）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（紋司）。
△	一九四三	昭和18	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦内の段（前 織＝団六、切 大隅＝清二郎）。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」（7月28日の記事、8月1・5・10・13・15日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四三	昭和18	京都 南座	摂州合邦辻	合邦住家の段（住＝吉三郎、切 大隅＝清二郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（政亀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（紋司）。
△	一九四三	昭和18	東京 すゞ本	（摂州合邦辻）	合邦（杣＝松市郎）。 ※義太夫錬成道場義太夫会。 ※『浄瑠璃月報』第77号、『太掉』第148号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	神戸 松竹劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※「神戸新聞」（9月18日）に拠る。	（不明）
△	一九四三	昭和18	東京 新橋演舞場	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 織＝団六、後 大隅＝清八）。	親合邦（玉助）、合邦女房（政亀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋太郎）、俊徳丸（栄三郎）。
△	一九四四	昭和19	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 南部＝寛治郎、切 織＝清二郎）。	親合邦（栄三）、合邦女房（政亀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋司）、俊徳丸（栄三郎）。
△	一九四四	昭和19	神戸 八千代劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※「神戸新聞」（8月19・24日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四四	昭和19	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 大隅＝清八）。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」（9月27日の記事、9月26~30日・10月2~4・6~7日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四四	昭和19	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 浜＝吉三郎、切 古靱＝清二郎）。	親合邦（栄三）、合邦女房（小兵吉）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋司）、俊徳丸（紋太郎）。
△	一九四四	昭和19	神戸 松竹劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※「神戸新聞」（10月30日・11月4~5日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四五	昭和20	京都 南座	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（司、古靱）。 ※『昭和の南座 資料編（上）』、『文楽人形の芸術』、「京都新聞」（8月27~28・30~31日・9月1・6~7・12~13日の広告）に拠る。	玉手御前（文五郎）、俊徳丸（栄三）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九四五	昭和20	11/2~7	朝日会館	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（切 古靱=清六）。	合邦（玉助）、母親（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（光造）、俊徳丸（亀松）。
△	一九四五	昭和20	12/20	松阪市 松阪劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※大阪文楽座巡業（12月12~21日、東海）の内。 ※『文楽興行記録昭和篇』には12月21日の公演とある。 ※「伊勢新聞」（12月15・19日）に拠る。	（不明）
△	一九四七	昭和22	4/3~26	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 織=団六、後 大隅=清八）。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋昇）、浅香姫（亀三）、俊徳丸（玉男）。
△	一九四七	昭和22	6/25	田中豊三郎氏の九 条工場	（摂州合邦辻）	合邦（綱=弥七）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九四七	昭和22	7/12~19	京都 南座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 源=寛治郎、切 山城少掾=清六）。	親合邦（門造）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（亀三）、俊徳丸（玉男）。
	一九四七	昭和22	9/20~25	東京 東京劇場	摂州合邦辻	合邦内の段（中 浜=吉五郎、切 古靱改め 山城少掾=清六）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（亀三）、俊徳丸（紋昇）。
	一九四七	昭和22	12/6~25	四ツ橋文楽座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 つばめ=錦糸/市治郎、切 山城少掾=清六）。 ※三代竹本津太夫追善興行。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。 ※桐竹門造休演のため、千種楽前の3日間、合邦を吉田玉男が代演（『吉田玉男文楽藝話』に拠る）。	親合邦（門造）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉徳）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（亀三）。
△	一九四七	昭和22	12/28	京都 西洞院にしき	（摂州合邦辻）	合邦（綱=弥七）。 ※幕間友の会第12回例会。文楽観賞講座第3講「合邦」研究会。 ※『幕間』（昭和22年12月号）に拠る。	
	一九四八	昭和23	5/25	広島 福山公会堂	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 呂=松之輔）。 ※広島・愛媛巡業（5月25~30日）の内。5月27日広島・三原東宝劇場、28日愛媛・北条大正座（役割不明）、29日愛媛・郡中寿楽座（役割不明）、30日愛媛・壬生川曙劇場（役割不明）で同公演あり（「山陽日日新聞」（5月19日）、「中国新聞」（5月22日の広告）、「愛媛新聞」（5月27日の広告）に拠る）。	親合邦（玉徳）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（亀三）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（紋之助）。
	一九四八	昭和23	7/7~12	名古屋 御園座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 雛=友衛門、切 山城少掾=清六）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（文五郎）、奴入平（亀三）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（玉男）。
△	一九四八	昭和23	7/16	浜松 江東劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※東海巡業（7月13~16日）の内。 ※「浜松民報」（7月21日の記事、7月16日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四八	昭和23	12/4	東京 芝美術館	（摂州合邦辻）	合邦（山城少掾=清六）。 ※東京における山城会発表。 ※『幕間』（昭和24年1月号）、『芝居手帖』（昭和24年1月号）に拠る。	

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四八	昭和23	12/22	ラジオ放送	合 邦 辻	合邦内の段（呂、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（12月22日）に拠る。	
	一九四九	昭和24	1/14~15・ 18~22	松坂会館 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 浜=清友、切 山城少掾=清六）。 ※「此の処檣下豊竹山城少掾 三味線鶴澤清六 人形玉手御前 吉田文五郎顔合せにて相勤めます」（番付）。 ※主催満蒙引揚文化人連盟。『文楽鑑賞の葉』（1冊250円）に招待券1枚という形式で入場料ナシ（『文楽興行記録昭和篇』に拠る）。	親合邦（玉助）、合邦女房（平次）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉男）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（光次）。
	一九四九	昭和24	3/28	和歌山 大映遊楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（松=八造、相生=松之輔）。 ※日時、場所は「和歌山新聞」（3月21・27日の広告）に拠る。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（光造）、奴入平（玉男）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（光次）。
△	一九四九	昭和24	4/15	淡路 湊 劇 場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（相生=松之輔）。 ※淡路巡業（4月13日~）の内。 ※『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（亀松）、奴入平（玉男）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（光次）。
	一九四九	昭和24	5/7~12	東京 有 楽 座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 浜=清友、切 山城少掾=清六）。 ※吉田文五郎休演のため、玉手御前を桐竹亀松が代演（『吉田玉明文楽藝話』に拠る）。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉男）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（光次）。
	一九四九	昭和24	8/22	函館 函 館 宝 劇 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（山城少掾=清六）。 ※東北・北海道巡業（8~9月）の内。9月12日仙台・東北劇場で同公演あり（『文楽興行記録昭和篇』に拠る）。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（亀松）、奴入平（玉男）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（光次）。
	一九四九	昭和24	9/12~14	松坂屋会館 〈組合〉	摂津(マ)合邦ヶ辻	下の巻の段（前 つばめ=勝太郎、後 住=吉兵衛）。 ※大阪第1回自力公演（『文楽興行記録昭和篇』）。	親合邦（玉徳）、母親（紋太郎）、玉手（紋十郎）、奴入平（紋二郎）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（紋三郎）。
	一九四九	昭和24	12/1~8	東京 三 越 劇 場 〈組合〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（住=吉兵衛//呂=寛治郎）。	合邦（玉徳）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（紋十郎）、入平（紋二郎）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（紋三郎）。
△	一九四九	昭和24	12/10	桐生 東 宝 劇 場 〈組合〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（住=吉兵衛）。 ※「上毛新聞」（12月8日の広告）に拠る。	合邦（玉徳）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（紋十郎）、入平（紋二郎）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（紋三郎）。
△	一九五〇	昭和25	2/11~12	兵庫 洲 本 劇 場 〈組合〉	（摂州合邦辻）	合邦。 ※淡路芸能文化協会主催、洲本市制10周年記念行事。 ※「神戸新聞（淡路版）」（2月10日）に拠る。	（不明）
	一九五〇	昭和25	2/15~18	名古屋 御 園 座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（前 松=八造、後 相生=松之輔）。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（光造）、奴入平（玉男）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（光次）。
△	一九五〇	昭和25	3/6	長崎市 西日本会館 〈組合〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※九州巡業（15日間）の内。3月9~10日博多・多聞座で同公演あり（「夕刊西日本新聞」（3月7日の広告）に拠る。）。 ※「長崎日日新聞」（3月3日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五〇	昭和25	3/9~13	東京 新橋演舞場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 松=八造、後 綱=弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（光造）、奴入平（光次）、浅香姫（和夫）、俊徳丸（紋司）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五〇	昭和25	6/3~18	四ツ橋文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 綱=弥七、後 津=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（栄三）、奴入平（紋司）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。
△	一九五〇	昭和25	ラジオ放送 〈三和会〉	（摂州合邦辻）	合邦内の段（住）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月21日）に拠る。	
△	一九五〇	昭和25	愛媛 三津永楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	※愛媛巡業（9月10日~）の内。台風のため9月15日の郡中より一旦帰阪（『幕間』（昭和25年10月号））とあるので、この公演は中止力。 ※「愛媛新聞」（9月10・15日の記事、9月6日の広告）に拠る。	
△	一九五〇	昭和25	鹿児島市 日本劇場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※11月24日熊本・歌舞伎座、30日小倉・小倉劇場で同公演あり。 ※「南日本新聞」（11月24・26日の記事、11月24日の広告）、「熊本日日新聞」（11月19・21日）、「西日本新聞（北九州版）」（11月29日の広告）に拠る。	玉手御前（栄三）。
		11/28	佐世保 佐世保市公会堂 〈因会〉		合邦（松、津）。 ※九州・山陰巡業の内。 ※「時事新聞」（12月1日の記事、11月28日の広告）に拠る。	（不明）
一九五〇	昭和25	12/17~18	京都 宮川町歌舞練場 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（切 呂改め 若=綱造）。	合邦（玉徳）、玉手母（紋太郎）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（正）、浅香姫（国秀）、俊徳丸（作十郎）。
一九五一	昭和26	5/17~31	四ツ橋文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 織部/織の=寛弘、切 綱=弥七）。 ※千穉楽は『松竹百年史』に拠る。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（文五郎）、奴入平（玉男）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。
一九五一	昭和26	6~7	地方公演 （北陸・北海道・東北・信州） 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前 河内=清友、後 綱=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（辰造）、玉手御前（栄三）、奴入平（玉五郎）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。
△	一九五一	昭和26	名古屋 松坂屋ホール 〈三和会〉	（摂州合邦辻）	合邦内の段（若）。 ※東海巡業の内。 ※「夕刊新東海」（7月19日）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九五一	昭和26	ラジオ放送 〈三和会〉	（摂州合邦辻）	合邦内（つばめ、他）。 ※「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞」（8月15日）に拠る。	
一九五一	昭和26	11/2~9	三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（切 若=綱造）。	親合邦（玉徳）、母親（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（要助）、浅香姫（勘十郎）、俊徳丸（作十郎）。
△	一九五一	昭和26	金沢市 北国第一劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段。 ※「北国新聞」（10月28日・11月11日の記事、11月6・11~12日の広告）、「石川新聞」（11月5日の広告）、『三和会公演控』に拠る。	（不明）

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五一	昭和26	11/20~22	京都 南座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切綱＝弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（辰造）、玉手御前（栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。	
一九五一	昭和26	12/1~4	東京 三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦庵室の段（切若＝綱造）。 ※吉田玉徳改め五代吉田辰五郎襲名披露。	合邦（玉徳改め辰五郎）、母親（紋之丞）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（要助）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（作十郎）。	
一九五一	昭和26	12/18~21	名古屋 御園座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前津＝寛治郎、後綱＝弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（辰造）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。	
一九五二	昭和27	2/23~25	神戸 繊維会館 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切綱＝弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。	
△	一九五二	昭和27	5/21	ラジオ放送 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（つばめ、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（5月21日）に拠る。	
一九五二	昭和27	7/1~4	東京 新橋演舞場 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前相生＝松之輔、後津＝寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（前＝文五郎、後＝玉五郎）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。	
一九五二	昭和27	8/1~5	京都 南座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前相生＝松之輔、後津＝寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。	
一九五二	昭和27	9/12~21	中座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切綱＝弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（前＝文五郎、後＝玉五郎）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。	
一九五三	昭和28	1/17~22	三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前住＝勝太郎、後若＝綱造）。	合邦（辰五郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋市）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。	
一九五三	昭和28	4/20	呉 本願寺会館 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（前伊達＝喜左衛門、後つばめ＝市治郎）。 ※北陸・山陽・九州巡業の内。4月22日八幡市・花月劇場、4月28日大牟田市・太陽館、4月30日熊本市・歌舞伎座（「合邦内の段・後」を竹本住太夫）で同公演あり（『文楽興行記録昭和篇』、「西日本新聞（地方版）」（4月28日の広告）、「熊本日日新聞」（4月27日の記事、4月30日の広告）に拠る）。	親合邦（辰五郎）、女房（紋之丞）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋市）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（作十郎）。	
△	一九五三	昭和28	5/17	兵庫 兵庫県立加古川東 高等学校講堂 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段。 ※文楽観賞会。 ※「神戸新聞（東播版）」（5月16日）に拠る。	（不明）
一九五三	昭和28	6/1~7	四ツ橋音楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	親合邦（玉助）、母親（紋太郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（淳造）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（光次）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	6/16~21	東京 新橋演舞場 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前 津=寛治郎、後 綱=弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。
△ 一九五三	昭和28	8/26	ラジオ放送 〈因会〉	（摂州合邦辻）	合邦（津、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（8月26日）に拠る。	
一九五三	昭和28	9/4~6	京都 南 座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（栄三）、奴入平（淳造）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（玉昇）。
一九五三	昭和28	9/26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※人形浄瑠璃素義会公演。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（前=文五郎、後=栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
一九五三	昭和28	12/17~22	東京 新橋演舞場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（津=寛治郎）。	親合邦（玉市）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
一九五四	昭和29	1/2~20	四ツ橋文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 織部/織の=豊助、切 山城少掾=藤蔵、後 津=寛治郎）。 ※千鶴楽は『松竹百年史』に拠る。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（前=文五郎、後=栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（玉昇）。
一九五四	昭和29	1/22~24	名古屋 御園座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（津=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（栄三）、奴入平（紋太郎）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
一九五四	昭和29	2/16~25	京都 弥栄会館 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 綱=弥七）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（光次）、俊徳丸（玉昇）。
一九五四	昭和29	3/15~18	三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（前 つばめ=燕三、切 若=綱造）。 ※千鶴楽は『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。 ※八世野沢吉兵衛・鶴沢友衛門・五世豊竹富太夫・桐竹紋吉・五世(マ)吉田玉造追善公演。	親合邦（辰五郎）、母親（紋之丞）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋七）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（作十郎）。
一九五四	昭和29	4/20~5/20	地方公演 （東海・関東・東北） 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦庵室の段（前 司=燕三、後 源=叶太郎）。	親合邦（辰五郎）、母親（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋之丞）、浅香姫（紋之助）、俊徳丸（作十郎）。
一九五四	昭和29	5/28~30	神戸 繊維会館 〈因会〉	摂州合邦辻	（前 相生=広助、後 津=寛治郎）。 ※5月27日明石市・明石市市民会館で同公演あり（「神戸新聞（明美版）」（5月26日の記事、5月23日の広告）に拠る）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。
一九五四	昭和29	6/1~6	東京 三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（前 源=叶太郎、切 住=勝太郎）。	親合邦（辰五郎）、女房（紋之丞）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋市）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
△ 一九五四	昭和29	6/3	浜松 浜松座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※『松竹百年史』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五四	昭和29	6/20	東京 三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（前 三和=勝平、後 古住=勝太郎）。 ※第1回若手勉強会。	親合邦（紋弥）、母親（紋之丞）、玉手御前（紋二郎）、奴入平（小紋）、浅香姫（勘之助）、俊徳丸（紋四郎）。
一九五四	昭和29	8/1~30	地方公演 （東海・北陸・東北・北海道） 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（口 織の=清友、切 山城少掾=藤蔵、奥 津=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（前=文五郎、後=玉五郎）、奴入平（淳造）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（光次）。
△	一九五四	昭和29	ラジオ放送 〈三和会〉	摂州合邦辻	（古住=勝太郎）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月1日）に拠る。	
△	一九五四	昭和29	前橋市 群馬会館 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦庵室の段。 ※巡業（中部・北陸・関東）の内。9月13日伊勢崎市・伊勢崎市公民館、9月21日甲府市・中央劇場、22日諏訪市・諏訪市民会館で同公演あり。 ※「上毛新聞」（9月13日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「山梨日日新聞」（9月17日の記事、9月18日の広告）、「南信日日新聞」（9月15日の記事と広告）に拠る。	（不明）
△	一九五四	昭和29	金沢市 北国第一劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦庵室の段。 ※北陸巡業の内。11月20日富山・富山座、11月24日福井・福井市公会堂で同公演あり。 ※「北国新聞」（11月21日の記事、11月18・21日の広告）、「富山新聞」「北陸夕刊」（11月20日の広告）、「福井新聞」（11月18・24日の記事、11月12・14・22日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五四	昭和29	四ツ橋文楽座 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段。 ※素人義太夫藤波和泉特別進歩賞披露祝賀人形浄瑠璃大会。	親合邦（紋太郎）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（淳造）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
	一九五四	昭和29	大槻能楽堂 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦内の段（津=寛治郎）。 ※芸術祭文楽合同素浄瑠璃会。	
	一九五四	昭和29	東京 東横ホール 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦内の段（津=寛治郎）。 ※芸術祭文楽合同公演。素浄瑠璃。	
	一九五四	昭和29	和歌山 和歌山県農業協同 組合講堂 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（中 織の=寛弘、切 山城少掾=藤蔵、後 津=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（淳造）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
	一九五四	昭和29	神戸 八千代劇場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 織部=寛弘、切 山城少掾=藤蔵、綱=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（紋太郎）、玉手御前（前=文五郎、後=玉五郎）、奴入平（淳造）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五五	昭和30	4/1~3	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 若=綱造）。	親合邦（辰五郎）、合邦女房（紋之丞）、 玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋市）、 浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
一九五五	昭和30	7/9~11	名古屋 御園座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 松=清六、後 津=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉 手御前（前=玉五郎、奥=文五郎）、奴 入平（淳造）、浅香姫（文昇）、俊徳丸 （玉昇）。
一九五五	昭和30	7/13~19	東京 新橋演舞場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 綱=弥七、後 津=寛治郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉 手御前（栄三）、奴入平（兵次）、浅香 姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
一九五五	昭和30	10/15	福岡 大博劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（前 源=叶太郎、切 若=燕三）。 ※九州巡業（9月27日~）の内。	合邦（辰五郎）、女房（国秀）、玉手御 前（紋十郎）、入平（紋之丞）、浅香姫 （紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
一九五五	昭和30	11/4~5	東京 三越劇場 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 つばめ=喜左衛門、後 若=綱造）。 ※芸術祭合同公演。	親合邦（辰五郎）、女房（国秀）、玉手 御前（紋十郎）、奴入平（紋二郎）、浅 香姫（紋之助）、俊徳丸（作十郎）。
△	一九五五	昭和30	ラジオ放送 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦庵室（若=燕三）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（12月14日）に 拠る。	
△	一九五六	昭和31	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手 御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫 （文昇）、俊徳丸（光次）。
一九五六	昭和31	2/14~19	京都 祇園甲部歌舞練場 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 十九=広助、切 山城少掾=藤蔵、後 津=寛 治）。 ※京都文楽会第10回記念公演。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉 手御前（前=文五郎、後=玉五郎）、奴 入平（兵次）、浅香姫（文雀）、俊徳丸 （光次）。
一九五六	昭和31	2/26	姫路 姫路市公会堂 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（若=燕三）。	合邦（勘十郎）、母親（紋之丞）、玉手 御前（紋十郎）、奴入平（紋市）、浅香 姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
一九五六	昭和31	3/2~26	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 津=寛治、後 綱=弥七）。 ※千種楽は3月27日（「朝日新聞（大阪版）」（3月27日の広告）に 拠る）だが、千種楽の一部を第6回若手勉強会とする。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉 手御前（前=文五郎、後=玉五郎）、奴 入平（淳造）、浅香姫（文昇）、俊徳丸 （光次）。
3/27		合邦住家の段（前 津=団六、後 織の=弥七）。 ※第6回文楽座因会若手勉強会。			合邦（文昇）、女房（常次）、玉手御前 （前=文五郎、後=文雀）、入平（淳 造）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（玉之 助）。	
一九五六	昭和31	6/1~8	東京 三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦庵室の段（切 若=綱造）。	合邦（辰五郎）、女房（国秀）、玉手御 前（紋十郎）、入平（紋七）、浅香姫 （紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五六	昭和31	6/17~21	東京 東横ホール 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 雛=清八、後 津=寛治郎改め 寛治）。 ※6月21日のみ別演目に差し替え。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（前=文五郎、後=玉五郎）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（光次）。	
一九五六	昭和31	9/28	下関 東宝劇場 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦庵室の段（切 つばめ=勝太郎）。	合邦（辰五郎）、母親（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋四郎）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。	
一九五六	昭和31	10/3~24	地方公演 （北海道・東北・関東） 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（津=寛治郎改め 寛治）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（栄三）、奴入平（淳造）、浅香姫（小玉）、俊徳丸（好太郎）。	
一九五七	昭和32	1/16~18	京都 先斗町歌舞練場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（若=綱造）。	親合邦（辰五郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（一日交代 紋七／紋四郎／紋弥）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。	
一九五七	昭和32	2/9~14	名古屋 毎日ホール 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 相生=松之輔、後 津=寛治）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（東太郎）。	
一九五七	昭和32	2/12~17	東京 三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段（中 若子=勝平、切 つばめ=勝太郎）。 ※第4回若手勉強会。	合邦（紋七）、母親（紋之丞）、玉手御前（紋二郎）、奴入平（小紋）、浅香姫（紋四郎）、俊徳丸（紋寿）。	
一九五七	昭和32	2/16~17	神戸 神戸新聞会館 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 相生=松之輔、後 津=寛治）。 ※吉田難波掾受賞(マ)記念。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（東太郎）。	
△	一九五七	昭和32	2/23	奈良 友楽会館 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前 相生=吉三郎、後 津=寛治）。 ※「朝日新聞（奈良版）」（2月22日の広告）に拠る。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（東太郎）。
一九五七	昭和32	2/24	和歌山 和歌山市民会館 〈因会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前 相生=吉三郎、後 津=寛治）。 ※吉田難波掾受領披露興行。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（東太郎）。	
一九五七	昭和32	3/1~25	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 山城少掾=藤蔵、後 津=寛治）。 ※豊竹山城少掾3日より休演のため、竹本綱太夫が代演。11日より「お蝶夫人」に差し替え。吉田玉助休演のため、合邦を吉田玉市が代演（『文楽因会三和会興行記録』、「朝日新聞（大阪版）」（3月7日）、「日本経済新聞（大阪版）」（3月18日）、『松竹百年史』、「国際新聞」（3月23日）に拠る）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（東太郎）。	
△	一九五七	昭和32	7/1	北海道 三井砂川中央会館 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段。 ※地方公演（北海道・東北）の内。 ※「砂川春秋」（6月15日）に拠る。	（不明）
一九五七	昭和32	11/10	豊中 大池小学校 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（切 つばめ=勝太郎、後 古住=燕三）。 ※豊中市立中央公民館新館移転記念。	親合邦（辰五郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（紋之丞）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（紋弥）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九五七	昭和32	11/15	ラジオ放送 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（11月15日）に拠る。	
	一九五八	昭和33	1/24～29	京都 南座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 綱＝弥七、後 相生＝松之輔）。	親合邦（玉助）、合邦女房（淳造）、玉手御前（栄三）、奴入平（兵次）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
	一九五八	昭和33	2/7～11	東京 読売ホール 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 松＝清六、後 津＝寛治）。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（亀松）、奴入平（玉昇）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（東太郎）。
	一九五八	昭和33	3/29～4/21	地方公演 （山陽・九州） 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（切 源＝叶太郎、後 小住＝市治郎）。 ※4月3～4日福岡・大博劇場は一部配役が異なる。合邦内の段（前 源＝叶太郎、切 住＝勝太郎）。	親合邦（勘十郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（菊一）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
	一九五八	昭和33	5/30～	地方公演 （伊勢） 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（切 源＝叶太郎、後 小住＝市治郎）。	親合邦（勘十郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（菊一）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
	一九五八	昭和33	6/18～24	東京 新橋演舞場 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 津＝寛治、後 若＝勝太郎）。	親合邦（玉助）、合邦女房（兵次）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（東太郎）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（紋之助）。
	一九五八	昭和33	7/21～28	地方公演 （東海道） 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段（切 源＝叶太郎、後 小住＝市治郎）。	親合邦（勘十郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（菊一）、浅香姫（紋二郎）、俊徳丸（作十郎）。
	一九五八	昭和33	11/30	徳島 新町小学校 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦庵室の段（切 若＝勝太郎）。 ※豊竹若大夫芸道60年記念。	親合邦（勘十郎）、女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（菊一）、浅香姫（紋寿）、俊徳丸（紋弥）。
△	一九五八	昭和33	12/5	ラジオ放送 〈因会〉	（摂州合邦辻）	合邦。 ※「文楽を引退する山城少掾」。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月5日）に拠る。	
	一九五九	昭和34	1/1～	道頓堀文楽座 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 松＝清六、後 綱＝弥七）。 ※豊竹山城少掾引退披露興行。 ※桐竹紋十郎休演のため、玉手御前を吉田玉五郎が代演、千穂楽近くに出演（『松竹百年史』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る）。	親合邦（玉助）、合邦女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（勘十郎）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（紋二郎）。
	一九五九	昭和34	1/27～28	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	親合邦（玉助）、合邦女房（常次）、玉手御前（栄三）、奴入平（玉男）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（玉昇）。
	一九五九	昭和34	2/13～16	東京 新橋演舞場 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 山城少掾＝藤蔵、後 綱＝弥七）。 ※豊竹山城少掾引退披露興行。	親合邦（玉助）、合邦女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉男）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（玉昇）。
	一九五九	昭和34	6/13～15	名古屋 御園座 〈合同〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段（前 相生＝松之輔、後 若＝勝太郎）。 ※豊竹山城少掾引退披露興行。	親合邦（玉助）、合邦女房（国秀）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（作十郎）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（文昇）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五九	昭和34	6/20~21	地方公演 (北陸・佐渡) 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(津=団六)。	親合邦(玉市)、合邦女房(兵次)、玉手御前(玉五郎)、奴入平(玉幸)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(玉昇)。	
一九五九	昭和34	8/2~5	京都 南座 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(前 綱=弥七、後 若=勝太郎)。	親合邦(玉助)、合邦女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(作十郎)、浅香姫(紋之助)、俊徳丸(紋二郎)。	
一九五九	昭和34	9/8~21	地方公演 (北海道) 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦内の段(中 古住=市治郎、前 つばめ=喜左衛門、後 津=団六)。	合邦(玉助)、合邦女房(国秀)、玉手御前(玉五郎)、奴入平(玉男)、浅香姫(文雀)、俊徳丸(紋二郎)。	
△	一九五九	昭和34	10/3	大津市 滋賀会館大ホール 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段。 ※「滋賀日日新聞」(9月24日)に拠る。	
一九五九	昭和34	10/18	和歌山 和歌山経済セン ター大ホール 〈合同〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段(津=団六)。	親合邦(玉助)、合邦女房(兵次)、玉手御前(栄三)、奴入平(玉幸)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(玉昇)。	
一九五九	昭和34	11/4~8	東京 新橋演舞場 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(親合邦一若・合邦女房一相生・浅香姫一松・奴入平一津・俊徳丸一つばめ・玉手御前一綱=前 弥七、後 勝太郎)。 ※吉田難波掾文化功労賞受賞記念。	親合邦(玉助)、合邦女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(東太郎)、浅香姫(文雀)、俊徳丸(清十郎)。	
一九六〇	昭和35	2/21~25	東京 新橋演舞場 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(前 つばめ=喜左衛門、後 津=寛治)。	親合邦(玉助)、合邦女房(国秀)、玉手御前(亀松)、奴入平(辰五郎)、浅香姫(清十郎)、俊徳丸(東太郎)。	
一九六〇	昭和35	3/28	名古屋 御園座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦内の段(綱=弥七)。 ※第10回邦楽名人大会。		
一九六〇	昭和35	12/24~27	東京 新橋演舞場 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(前 松改め 春子=松之輔、後 若=勝太郎)。 ※豊竹松大夫改め三代竹本春子大夫襲名披露。 ※12月27日ラジオ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(12月27日)に拠る)。	親合邦(玉助)、合邦女房(国秀)、玉手御前(亀松)、奴入平(勘十郎)、浅香姫(清十郎)、俊徳丸(東太郎)。	
△	一九六一	昭和36	3/5	三重 上野市産業会館 〈合同〉	摂州合邦辻	合邦庵室。 ※『松竹百年史』、「中部日本新聞(三重版)」(3月4日)、「伊賀新聞」(3月5日)に拠る。	
一九六一	昭和36	3/17	山口 徳山市民会館 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦庵室。 ※九州・中国巡業(3月11日~)の内。		
一九六一	昭和36	3/25~4/15	地方公演 (東海・関東・中部) 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段(前 つばめ=喜左衛門、後 文字=勝太郎)。	親合邦(辰五郎)、女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(紋寿)、浅香姫(紋二郎)、俊徳丸(勘十郎)。	
一九六一	昭和36	7/2~11	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(前 土佐=藤蔵、後 相生=重造)。 ※桐竹亀松7月11日より休演のため、玉手御前を吉田文雀が代演(『吉田文雀ノート』に拠る)。	親合邦(玉助)、合邦女房(平次)、玉手御前(亀松)、奴入平(玉昇)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(東太郎)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六一	昭和36	7/10~22	地方公演 (関東・東北) 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦内の段(前 つばめ=喜左衛門、後 文字=勝太郎)。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』では12~18日とする。	親合邦(辰五郎)、女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(紋寿)、浅香姫(簀助)、俊徳丸(勘十郎)。
		7/10	足利市 月見ヶ丘体育館 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦住家(若=勝太郎)。 ※地方公演(関東・東北、7月10日~)の内。	親合邦(辰五郎)、女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(菊一)、浅香姫(勘之助)、俊徳丸(作十郎)。
一九六一	昭和36	7/27	東京 歌舞伎座 〈因会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(津=吉三郎)。 ※文楽座大夫三味線名曲鑑賞会。	
一九六一	昭和36	10/6~21	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段(前 つばめ=喜左衛門、後 文字=勝太郎)。	親合邦(辰五郎)、女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(紋寿)、浅香姫(簀助)、俊徳丸(勘十郎)。
一九六二	昭和37	2/12~16	地方公演 (東京) 〈三和会〉	摂州合邦ヶ辻	合邦住家の段(前 つばめ=喜左衛門、後 文字=勝太郎)。	親合邦(辰五郎)、女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(紋寿)、浅香姫(簀助)、俊徳丸(勘十郎)。
一九六二	昭和37	7/24	東京 本 牧 亭 〈三和会〉	(摂州合邦辻)	(若=重造)。 ※若大夫会。	
一九六二	昭和37	10/4	京都 京都会館第二ホール 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦住家の段(つばめ=喜左衛門)。 ※京都放送局放送開始30周年記念、NHK邦楽舞踊名流大会。	
△	一九六二	昭和37	ラジオ放送 〈三和会〉	摂州合邦辻	(つばめ=喜左衛門)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(10月11日)に拠る。	
一九六二	昭和37	10/20~24	京都 南 座 〈因会〉	摂州合邦辻	万代池の段(浅香姫-南部・俊徳丸-十九・合邦-伊達路・奴入平-相子・次郎丸-松香・彼岸参り-津弥=吉三郎)、合邦住家の段(中 南部=錦糸、前 土佐=藤蔵、後 津=寛治)。	親合邦(玉市)、合邦女房(常次)、玉手御前(栄三)、奴入平(玉昇)、浅香姫(文雀)、俊徳丸(東太郎)。
一九六二	昭和37	10/30~11/5	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	万代池の段(大隅=吉三郎)、合邦住家の段(中 織の=錦糸、前 土佐=藤蔵、後 相生=重造)。 ※吉田東太郎休演(『吉田文雀ノート』に拠る)。	合邦(玉市)、合邦女房(常次)、玉手御前(亀松)、奴入平(玉昇)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(東太郎)。
△	一九六二	昭和37	ラジオ放送 〈因会〉	摂州合邦辻	(織の)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(12月5日)に拠る。	
一九六三	昭和38	1/29~2/3	東京 三越劇場 〈三和会〉	摂州合邦辻	合邦内の段(中 文字=勝平、切 若=勝太郎)。 ※文楽三和会「お別れ」公演(筋書)。	合邦(勘十郎)、女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(作十郎)、浅香姫(紋寿)、俊徳丸(紋弥)。
一九六三	昭和38	3/23	道頓堀文楽座 〈因会〉	摂州合邦辻	下の巻。 ※文楽素人人形浄瑠璃公演会に人形参加。	合邦(玉市)、母親(常次)、玉手御前(栄三)、奴入平(玉昇)、朝香姫(玉五郎)、俊徳丸(玉男)。
一九六四	昭和39	7/3~15	朝 日 座	摂州合邦辻	合邦住家の段(前 相生=重造、後 若=勝太郎)。	合邦(玉助)、合邦女房(常次)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(辰五郎)、浅香姫(小玉)、俊徳丸(簀助)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六四	昭和39	9/26~27	名古屋 愛知文化講堂	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 綱=弥七、後 津=寛治）。	合邦（玉助）、合邦女房（国秀）、玉手御前（亀松）、奴入平（作十郎）、浅香姫（紋寿）、俊徳丸（紋弥）。
一九六五	昭和40	1/23	松坂屋ホール	摂州合邦辻	合邦内の段（津=寛治）。 ※人形浄瑠璃男女合同公演。	親合邦（辰五郎）、合邦女房（国秀）、玉手御前（亀松）、奴入平（玉幸）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（簗助）。
△	一九六五	昭和40	10/21・28	ラジオ放送	合邦内の段（織=弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月21日）に拠る。	
一九六七	昭和42	4/18~30	朝日座	摂州合邦辻	合邦住家の段（文字=錦糸、津=寛治）。	親合邦（亀松）、合邦女房（常次）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（簗助）。
一九六七	昭和42	11/28	朝日座	摂州合邦辻	合邦内の段。 ※日本素人浄瑠璃会主催人形浄瑠璃大会に人形参加。	（不明）
△	一九六七	昭和42	11/28・12/5	ラジオ放送	合邦内の段（伊達路）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（11月28日）に拠る。	
△	一九六八	昭和43	1/28	テレビ放送	合邦内の段（津=寛治）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月28日）に拠る。	合邦（玉男）、合邦女房（国秀）、玉手御前（亀松）、浅香姫（紋寿）、俊徳丸（清十郎）。
△	一九六九	昭和44	4/24	ラジオ放送	（相生）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月24日）に拠る。	
一九六九	昭和44	6/11~26	地方公演 （北陸・関東・東海）	摂州合邦辻	合邦住家の段（文字=叶太郎、津=団六）。	親合邦（勘十郎）、合邦女房（常次）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（紋寿）。
一九六九	昭和44	7/2~13	朝日座	摂州合邦辻	合邦住家の段（呂=勝平、越路=喜左衛門）。	親合邦（勘十郎）、合邦女房（玉五郎）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（文雀）、俊徳丸（玉昇）。
一九六九	昭和44	7/14~15	朝日座	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 相子=団二郎、後 小松=勝平）。 ※第6回文楽若手向上会。	親合邦（玉昇）、合邦女房（文昇）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉之助）、浅香姫（勘寿）、俊徳丸（小紋）。
△	一九六九	昭和44	10/28	ラジオ放送	（小松）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月28日）に拠る。	
一九六九	昭和44	11/19~26	地方公演 （山陽・九州）	摂州合邦辻	合邦住家の段（津=団六）。	親合邦（亀松）、合邦女房（玉五郎）、玉手御前（紋十郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（簗助）。
一九六九	昭和44	11/29~30	名古屋 中日劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（小松=勝平、越路=喜左衛門）。	親合邦（勘十郎）、合邦女房（玉五郎）、玉手御前（亀松）、奴入平（作十郎）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（紋弥）。

## 「摂州合邦辻」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九六九	昭和44	12/3~16	地方公演 (山陽・九州)	摂州合邦辻	合邦住家の段(津=団六)。	親合邦(亀松)、合邦女房(国秀)、玉手御前(紋十郎)、奴入平(作十郎)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(文雀)。
	一九七〇	昭和45	1/27	ラジオ放送	摂州合邦辻	(相子)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月27日)に拠る。	
	一九七〇	昭和45	5/15~17	京都 ヤサカ会館	摂州合邦辻	合邦住家の段(津=寛治)。 ※京都文楽会第5回自主興行。	親合邦(玉男)、合邦女房(玉五郎)、玉手御前(亀松)、奴入平(紋弥)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(玉昇)。
	一九七一	昭和46	9/12~19	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段(前津=団二郎、后文字=団六)。	合邦道心(作十郎)、合邦女房(勘十郎)、玉手御前(簗助)、奴入平(福丸)、浅香姫(紋寿)、高安俊徳丸(一暢)。
	一九七二	昭和47	5/1	サンケイホール	摂州合邦辻	合邦住家の段(小松=勝平、津=寛治)。 ※第9回なにわ芸術祭。	親合邦(玉男)、合邦女房(辰五郎)、玉手御前(栄三)、奴入平(玉幸)、浅香姫(文雀)、俊徳丸(簗助)。
△	一九七二	昭和47	11/21~12/1	地方公演 (東北・近畿)	摂州合邦辻	合邦住家(文字=吉兵衛)。 ※『七世竹本住大夫舞台年譜』に拠る。	
	一九七二	昭和47	12/10~17	地方公演 (中国・九州)	摂州合邦辻	合邦住家の段(文字=吉兵衛、津=勝太郎)。	親合邦(勘十郎)、合邦女房(辰五郎)、玉手御前(清十郎)、奴入平(作十郎)、浅香姫(紋寿)、俊徳丸(一暢)。
	一九七三	昭和48	7/15~29	朝日座	摂州合邦辻	合邦住家の段(伊達路=叶太郎、津=寛治)。 ※三世竹本津太夫三十三回忌追善。	親合邦(勘十郎)、合邦女房(玉五郎)、玉手御前(玉男)、奴入平(作十郎)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(玉松)。
	一九七三	昭和48	9/9~23	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	住吉松原毒酒の段(呂=錦糸)、万代池の段(伊達路=吉兵衛・ツレ勝之輔)、合邦庵室の段(中緑=団六、切津=寛治)。 ※野沢松之輔=作曲(「万代池の段」)。 ※三世竹本津太夫三十三回忌追善。	合邦道心(勘十郎)、合邦女房(国秀)、玉手御前(亀松)、奴入平(玉松)、浅香姫(文昇)、高安俊徳丸(玉昇)。
	一九七三	昭和48	12/12~13	名古屋 中日劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段(緑=団六、津=寛治)。 ※三世竹本津太夫三十三回忌追善。	親合邦(勘十郎)、合邦女房(作十郎)、玉手御前(亀松)、奴入平(玉松)、浅香姫(文昇)、俊徳丸(玉昇)。
△	一九七五	昭和50	11/9~11	地方公演 (近畿)	摂州合邦辻	合邦住家。 ※『上演狂言でつづる文楽の十五年』に拠る。	
	一九七六	昭和51	5/2	兵庫 明石市民会館	摂州合邦辻	合邦住家の段(緑=勝平、文字=吉兵衛、津=勝太郎)。 ※第36回明石市民会館自主公演。	親合邦(勘十郎)、合邦女房(玉男)、玉手御前(簗助)、奴入平(玉幸)、浅香姫(一暢)、俊徳丸(文昇)。
	一九七七	昭和52	1/2~23	朝日座	摂州合邦辻	合邦住家の段(呂/咲=叶太郎、越路=清治、織=錦糸)。 ※桐竹紋寿7~8日休演のため、浅香姫を吉田小玉が代演。	親合邦(勘十郎)、合邦女房(作十郎)、玉手御前(玉男)、奴入平(玉幸)、浅香姫(紋寿)、俊徳丸(玉松)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七七	昭和52	1/25~28	朝日座	摂州合邦辻	合邦住家の段（三輪=清友、相生=勝平）。 ※若手向上会。	親合邦（玉幸）、合邦女房（文雀）、玉手御前（小玉）、入平（玉輝）、浅香姫（簀司）、俊徳丸（清之助）。
一九七七	昭和52	2/26	東京第一生命ホール	攝州合邦辻	庵室の段（咲=清治）。 ※花光會。素浄瑠璃。	
一九七七	昭和52	3/5~29	地方公演（関東・東北・東海・近畿・山陽）	摂州合邦辻	合邦住家の段（津=吉兵衛、伊達路=団六）。	親合邦（勘十郎）、合邦女房（文昇）、玉手御前（清十郎）、奴入平（玉女）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（玉松）。
一九七八	昭和53	2/11~25	東京国立劇場小劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段（文字=錦糸）。	合邦道心（作十郎）、合邦女房（文雀）、玉手御前（清十郎）、奴入平（玉幸）、浅香姫（紋寿）、高安俊徳丸（小玉）。
一九七八	昭和53	6/1~4	京都府立文化芸術会館	摂州合邦辻	合邦住家の段（伊達路=清友、津=吉兵衛）。	親合邦（亀松）、合邦女房（紋寿）、玉手御前（簀助）、奴入平（玉幸）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（玉昇）。
一九七九	昭和54	5/12~27	東京国立劇場小劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段（中 緑=勝司、前 南部=重造、切 津=団六）。 ※六世鶴沢寛治追善狂言。 ※鶴沢重造休演のため、「合邦庵室の段・前」を鶴沢燕三が代演。	親合邦（勘十郎）、合邦女房（作十郎）、玉手御前（玉男）、奴入平（玉幸）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（文昇）。
一九八〇	昭和55	9/6~21	東京国立劇場小劇場	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸=南部・浅香姫=嶋・入平=松香・次郎丸=三輪・参詣人=南司・参詣人=千歳・合邦=小松=団二郎・ツレ 燕太郎）、合邦庵室の段（中 伊達路=叶太郎、切 越路=清治）。 ※鶴沢叶太郎休演のため、「合邦庵室の段・中」を鶴沢清介が代演。	合邦道心（玉男）、合邦女房（作十郎）、玉手御前（簀助）、奴入平（玉幸）、浅香姫（文昇）、高安俊徳丸（文雀）。
一九八〇	昭和55	9/25~10/3	地方公演（九州・四国・山陰）	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 緑=吉之助、切 津=道八、後 十九=燕三）。 ※文化庁移動芸術祭。	親合邦（玉男）、合邦女房（作十郎）、玉手御前（簀助）、奴入平（玉幸）、浅香姫（文昇）、俊徳丸（一暢）。
一九八一	昭和56	11/12~29	地方公演（北海道・東北・関東）	摂州合邦辻	合邦住家の段（切 津=団七、後 十九=団六）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（小玉）、玉手御前（玉男）、奴入平（玉女）、浅香姫（簀太郎）、俊徳丸（玉也）。
一九八一	昭和56	11/30	泉佐野市民会館	摂州合邦辻	合邦住家の段（津=団七、十九=団六）。 ※大阪府民劇場。	親合邦（作十郎）、合邦女房（小玉）、玉手御前（玉男）、奴入平（玉女）、浅香姫（簀太郎）、俊徳丸（玉也）。
一九八二	昭和57	1/2~24	朝日座	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸=相生・浅香姫=津駒・入平=三輪・次郎丸=津国・参詣人=文字栄・参詣人=千歳・合邦=松香=清友・ツレ 八介）、合邦住家の段（中 小松=叶太郎、前 十九=錦糸、切 越路=清治）。	合邦道心（万代池=玉松）、合邦住家=勘十郎、合邦女房（文昇）、玉手御前（玉男）、奴入平（作十郎）、浅香姫（紋寿）、俊徳丸（文雀）。
一九八二	昭和57	1/26~29	朝日座	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸=文字栄・浅香姫=千歳・入平=南司・次郎丸=津梅・参詣人=英・参詣人=緑・合邦=津国=吉之助・ツレ 団治）、合邦住家の段（中 千歳/津梅=八介、前 津駒=清介、後 英=清友）。 ※文案若手向上会。	合邦道心（玉松）、合邦女房（文昇）、玉手御前（簀太郎）、奴入平（玉也）、浅香姫（万代池=簀二郎、合邦住家=玉英）、俊徳丸（万代池=亀次、合邦住家=若玉）。

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九八五	昭和60	3/9	名古屋 CBC婦人ホール	摂州合邦辻	合邦庵室の段（呂＝錦弥）。 ※CBC特選邦楽会。 ※『文楽』第4号に拠る。	
△	一九八五	昭和60	3/15	テイジンホール	(摂州合邦辻)	合邦（呂＝錦弥）。 ※第1回花形素浄瑠璃の会。 ※『文楽』第4号に拠る。	
	一九八六	昭和61	1/3～26	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段（中 相生＝錦弥、切 津＝団七）。 ※竹本津太夫17日休演のため、「合邦庵室の段・切」を竹本相生太夫が代演。	親合邦（作十郎）、合邦女房（紋寿）、 玉手御前（文雀）、奴入平（玉幸）、浅 香姫（簗太郎）、俊徳丸（勘寿）。
	一九八七	昭和62	10/4～18	地方公演 (北海道・東北・ 関東)	摂州合邦辻	合邦庵室の段（呂＝燕二郎、切 住＝富助）。	親合邦（玉幸）、合邦女房（紋寿）、玉 手御前（玉男）、奴入平（玉也）、浅香 姫（清之助）、俊徳丸（簗太郎）。
	一九八七	昭和62	12/5	松戸市 聖徳学園川並記念 講堂	摂州合邦辻	合邦庵室の段（呂＝燕二郎、切 住＝富助）。 ※第198回聖徳学園シリーズコンサート。	親合邦（玉幸）、合邦女房（紋寿）、玉 手御前（玉男）、奴入平（玉也）、浅香 姫（清之助）、俊徳丸（簗太郎）。
	一九八八	昭和63	3/2～22	地方公演 (近畿・山陽・九 州・東海・中京)	摂州合邦辻	合邦庵室の段（咲＝清友、切 住＝錦弥）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（文昇）、 玉手御前（玉男）、奴入平（玉輝）、浅 香姫（和生）、俊徳丸（一暢）。
	一九八八	昭和63	3/23	岡山 岡山県立美術館	摂州合邦辻	合邦庵室の段（咲＝清友、切 住＝錦弥）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（文昇）、 玉手御前（玉男）、奴入平（玉輝）、浅 香姫（和生）、俊徳丸（一暢）。
	一九八八	昭和63	4/28	鈴鹿 鈴鹿市中央公民館	摂州合邦辻	合邦庵室の段（咲＝清友、切 住＝錦弥）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（文昇）、 玉手御前（玉男）、奴入平（玉輝）、浅 香姫（和生）、俊徳丸（一暢）。
	一九九一	平成3	11/30	キリンプラザ	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 呂勢＝団治、後 津駒＝清二郎）。 ※若手素浄瑠璃の会。	
	一九九一	平成3	12/5～17	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸一相生・浅香姫一松香・入平一貴・参詣人一千 歳・次郎丸一津国・参詣人一津梅・合邦一小松＝燕二郎・喜一朗／ 団吾）、合邦庵室の段（中 英＝団治／清二郎、前 呂＝清友、後 咲＝富助）。 ※野沢松之輔＝作曲（「万代池の段」）。 ※竹本津梅太夫休演のため、「万代池の段」参詣人を竹本文字久太 夫が代演。豊竹小松太夫休演のため、「万代池の段」合邦を豊竹英 太夫が代演。	合邦道心（玉幸）、合邦女房（文昇）、 玉手御前（一暢）、奴入平（玉也）、浅 香姫（清之助）、高安俊徳丸（和生）。
	一九九一	平成3	12/18	東京 新宿文化センター	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 呂勢＝団治、後 津駒＝清二郎）。 ※若手素浄瑠璃の会。	
	一九九二	平成4	9/28～10/2	地方公演 (東海)	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 十九＝清友、後 伊達＝団六）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（紋寿）、 玉手御前（簗助）、奴入平（玉也）、俊 徳丸（勘寿）。
	一九九二	平成4	10/7～25	地方公演 (近畿・都内・中 京・北陸)	摂州合邦辻	合邦庵室の段（前 十九＝清友、後 伊達＝団六）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（紋寿）、 玉手御前（簗助）、奴入平（玉也）、浅 香姫（勘弥）、俊徳丸（勘寿）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九二	平成4	11/29	西宮 白鹿記念酒造博物 館たつみ蔵	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 十九=清友、後 伊達=団六//中 緑=団治、前 十九=清友、後 伊達=団六）。 ※西宮酒蔵公演。	親合邦（文吾/玉男）、合邦女房（一 暢）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉 女）、浅香姫（簗太郎）、俊徳丸（勘 寿）。
一九九三	平成5	1/3～25	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 呂=喜左衛門//咲=清治、奥 咲=清治//呂=喜 左衛門）。 ※豊竹呂太夫3～11日休演のため、「合邦住家の段・中」を3～4・6 ～7日は竹本津駒太夫が、5・8～11日は竹本緑太夫が代演。野沢喜 左衛門休演のため、「合邦住家の段・中」「合邦住家の段・奥」を 野沢錦弥が代演。	親合邦（作十郎）、合邦女房（文昇）、 玉手御前（文雀）、奴入平（文吾/玉 幸）、浅香姫（一暢）、俊徳丸（勘 寿）。
一九九三	平成5	2/28～3/22	地方公演 （近畿・中国・関 東・東海・九州）	摂州合邦辻	合邦庵室の段（前 咲=清治、切 住=富助）。	親合邦（玉松）、合邦女房（文昇）、玉 手御前（玉男）、奴入平（玉輝）、浅香 姫（清之助）、俊徳丸（和生）。
一九九三	平成5	8/21	横浜市 教育文化センター 内教育文化ホール	摂州合邦辻	合邦庵室の段（呂=清治）。 ※素浄瑠璃。	
一九九六	平成8	6/28～30	京都 南 座	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 緑=弥三郎、切 十九=富助、後 伊達=団 六）。	親合邦（作十郎）、合邦女房（文昇）、 玉手御前（簗助）、奴入平（玉女）、浅 香姫（和生）、俊徳丸（勘寿）。
一九九七	平成9	1/3～26	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 緑=宗助、切 綱=清二郎）。 ※鶴沢藤蔵三十三回忌追善。	親合邦（作十郎）、合邦女房（紋寿）、 玉手御前（文雀）、奴入平（玉幸）、浅 香姫（玉英/簗二郎）、俊徳丸（勘 寿）。
一九九七	平成9	1/28～29	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 三輪=喜一朗、奥 英=八介）。 ※第17期文楽研修生発表会・文楽既成者研修発表会。	親合邦（幸助）、合邦女房（玉英）、玉 手御前（和右）、奴入平（簗紫郎）、浅 香姫（簗一郎）、俊徳丸（玉佳）。
一九九八	平成10	5/30～31	愛媛 内 子 座	摂州合邦辻	合邦住家の段（前 緑=八介、後 呂=富助）。	親合邦（玉男）、合邦女房（勘寿）、玉 手御前（文雀）、奴入平（文吾）、浅香 姫（簗太郎）、俊徳丸（玉也）。
一九九八	平成10	9/5～20	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段（中 緑=八介、切 綱=清二郎、切 十九=清治）。	親合邦（玉男）、合邦女房（作十郎）、 玉手御前（文雀）、奴入平（玉也）、浅 香姫（清之助）、俊徳丸（玉輝/文 司）。
一九九九	平成11	2/3	東京 国立演芸場	摂州合邦辻	合邦住家の段（津駒=団七）。 ※文楽素浄瑠璃勉強会。	
一九九九	平成11	4/27	T・Bホール	摂州合邦辻	合邦住家の段（津駒=団七）。 ※文楽素浄瑠璃勉強会。	
二〇〇〇	平成12	10/28	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段（住=錦糸）。 ※第12回文楽素浄瑠璃の会（第113回邦楽公演）。 ※文化財保護法50年記念。	
二〇〇一	平成13	4/7～29	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 千歳=宗助、前 咲=富助、切 住=錦糸）。	親合邦（玉幸）、合邦女房（一暢）、玉 手御前（簗助）、奴入平（和生）、浅香 姫（玉英）、俊徳丸（文司）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	二〇〇一	平成13	6/24~25	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 新=清胤、前 文字久=喜一郎、後 津国=清太郎）。 ※第1回文楽若手会。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	親合邦（玉志）、合邦女房（玉英）、玉手御前（簗二郎）、奴入平（幸助）、浅香姫（一輔）、俊徳丸（簗一郎）。
	二〇〇一	平成13	6/29	岡山 倉敷市芸文館アイ シアター	摂州合邦辻	合邦庵室（住=錦糸）。 ※素浄瑠璃。 ※『七世竹本住大夫舞台年譜』に拠る。	
	二〇〇二	平成14	9/28	東京 日経ホール	摂州合邦辻	合邦庵室の段（住=錦糸）。 ※素浄瑠璃。	
	二〇〇二	平成14	10/3~21	地方公演 （東海・東北・北 陸・信越）	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 新=弥三郎、切 十九=清治、奥 咲=富助）。	親合邦（文吾）、合邦女房（紋豊）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉輝/亀次）、浅香姫（玉英）、俊徳丸（清三郎）。
	二〇〇三	平成15	2/8~23	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸—松香・浅香姫—貴・入平—津国・次郎丸—始・参詣人—相子・参詣人—睦・合邦—三輪=清友・ツレ 清胤）、合邦庵室の段（中 呂勢=清太郎、切 嶋=清介、切 住=錦糸）。 ※野沢松之輔=作曲（「万代池の段」）。	合邦道心（文吾）、合邦女房（紋豊）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉女）、浅香姫（清之助）、高安俊徳丸（簗太郎）。
	二〇〇三	平成15	3/2~20	地方公演 （中国・四国・近 畿・九州・東海・ 関東・北陸）	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 津国=弥三郎、切 綱=清二郎、奥 伊達=寛治）。	親合邦（和生）、合邦女房（玉英）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉志）、浅香姫（清三郎）、俊徳丸（和右）。
	二〇〇三	平成15	6/28~29	京都 南 座	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸—松香・浅香姫—貴・入平—津国・次郎丸—始・参詣人—相子・参詣人—睦・合邦—三輪=清友・ツレ 清胤）、合邦住家の段（中 呂勢=清太郎、前 咲=富助、切 住=錦糸）。	合邦道心（文吾）、合邦女房（紋豊）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉志）、浅香姫（簗二郎）、高安俊徳丸（勘弥）。
	二〇〇四	平成16	5/30	東京 紀尾井小ホール	摂州合邦が辻	（津駒=寛治）。 ※六世鶴沢寛治没後30年記念・寛治を聴く会。素浄瑠璃。	
△	二〇〇四	平成16	10/14	東京 鏡仙会能楽研修所	摂州合邦辻	合邦住家の段（英=清友）。 ※第2回英大夫の会。 ※『文楽・六代豊竹呂太夫 五感のかなたへ』に拠る。	
△	二〇〇五	平成17	3/18	大槻能楽堂	摂州合邦辻	合邦住家の段（英=清友）。 ※第3回英大夫の会。 ※『文楽・六代豊竹呂太夫 五感のかなたへ』に拠る。	
	二〇〇五	平成17	7/16~8/7	国立文楽劇場	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸—松香・浅香姫—南都・入平—始・次郎丸—文字栄・参詣人—呂茂・参詣人—希・合邦—新=喜左衛門・ツレ 龍聿）、合邦庵室の段（中 呂勢=清志郎、切 綱=清二郎、切 十九=富助）。 ※野沢松之輔=作曲（「万代池の段」）。 ※野沢喜左衛門休演のため、「万代池の段」を野沢喜一郎が代演。 ※7月22・29日・8月5日は社会人のための文楽入門“ういーくえんど文楽”公演も実施（「合邦庵室の段」のみの上演）。	合邦道心（文吾）、合邦女房（玉英）、玉手御前（文雀）、奴入平（勘緑/玉志）、浅香姫（清三郎/和右）、高安俊徳丸（和生）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇七	平成19	2/9~25	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸一松香・浅香姫一三輪・入平一始・次郎丸一貴・参詣人一希・参詣人一靖・合邦一英=団七・ツレ 団吾）、合邦庵室の段（中 文字久=清志郎、切 綱=清二郎、切 住=錦糸）。 ※野沢松之輔=作曲（「万代池の段」）。 ※国立劇場開場40周年記念。	合邦道心（文吾）、合邦女房（紋豊）、玉手御前（文雀）、奴入平（玉志）、浅香姫（勘弥）、高安俊徳丸（清三郎/篁二郎）。
二〇一一	平成23	9/25~10/17	地方公演 （近畿・東北・関東・北陸・東海）	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 睦=清胤、前 津駒=清二郎改め 藤蔵、後 英=清介）。	親合邦（玉志）、合邦女房（篁二郎）、玉手御前（勘十郎）、奴入平（玉佳）、浅香姫（篁紫郎）、俊徳丸（勘市）。
二〇一二	平成24	2/25~3/17	地方公演 （沖縄・九州・中国・近畿・関東）	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 相子=清丈、前 三輪=団七、後 千歳=宗助）。 *「清丈」の丈は異体字。	親合邦（玉女）、合邦女房（文司）、玉手御前（和生）、奴入平（幸助）、浅香姫（一輔）、俊徳丸（清五郎）。
二〇一二	平成24	7/21~8/7	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦庵室の段（中 松香=清友、切 咲=燕三、切 嶋=富助）。	合邦道心（玉也）、合邦女房（文司）、玉手御前（和生）、奴入平（玉志）、浅香姫（勘弥）、高安俊徳丸（清五郎）。
二〇一三	平成25	2/9~25	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	万代池の段（俊徳丸一三輪・浅香姫一南都・入平一相子・次郎丸一希・参詣人一咲寿・参詣人一小住・合邦一津国=清友・ツレ 清丈）、合邦庵室の段（中 咲甫=喜一郎、前 津駒=寛治、切 咲=燕三）。 ※野沢松之輔=作曲（「万代池の段」）。 *「清丈」の丈は異体字。	合邦道心（玉也）、合邦女房（篁二郎）、玉手御前（和生）、奴入平（幸助）、浅香姫（一輔）、高安俊徳丸（玉佳/勘市）。
二〇一四	平成26	11/29	西宮 白鷹緑水苑宮水 ホール	摂州合邦辻	合邦庵室の段（津駒=藤蔵）。 ※第7回造り酒屋で楽しむ吉田文雀の会「酒屋万来文楽」。	
二〇一四	平成26	12/20~21	福岡 博多座	摂州合邦辻	合邦庵室の段（中 睦=清志郎、前 津駒=寛治、切 咲=燕三）。 ※博多座開場15周年記念。	合邦道心（玉也）、合邦女房（篁二郎）、玉手御前（和生）、奴入平（文司）、浅香姫（一輔）、高安俊徳丸（文雀）。
二〇一五	平成27	2/6	国立文楽劇場 小ホール	摂州合邦辻	合邦庵室の段（咲甫=清胤）。 ※第3回若手素浄瑠璃の会（国立文楽劇場文楽既成者研修発表会）。	
二〇一八	平成30	1/3~25	国立文楽劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 南都=清胤、切 咲=清治、後 咲甫改め 織=燕三）。 ※八代目竹本綱太夫五十回忌追善・豊竹咲甫太夫改め六代目竹本織太夫襲名披露狂言。	合邦道心（和生）、合邦女房（勘寿）、玉手御前（勘十郎）、奴入平（玉佳）、浅香姫（篁二郎）、高安俊徳丸（一輔）。
二〇一八	平成30	2/10~26	東京 国立劇場 小劇場	摂州合邦辻	合邦住家の段（中 南都=清胤、切 咲=清治、後 咲甫改め 織=燕三）。 ※八代目竹本綱太夫五十回忌追善・豊竹咲甫太夫改め六代目竹本織太夫襲名披露狂言。	合邦道心（和生）、合邦女房（勘寿）、玉手御前（勘十郎）、奴入平（玉佳）、浅香姫（篁二郎）、高安俊徳丸（一輔）。
△ 二〇一九	令和1	6/27	名古屋 名古屋芸術創造 センター	摂州合邦辻	合邦住家の段（千歳=藤蔵）。 ※名古屋芸術創造センタープレミアムセレクト 特別公演「文楽を聴く」。 ※チラシに拠る。	

## 「摂州合邦辻」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇二〇	令和2	10/5~18	地方公演 (北海道・北陸・ 東海・関東)	摂州合邦辻	合邦住家の段(中 亘=清旭、前 呂勢=清治、後 呂=清介)。	合邦道心(玉志)、合邦女房(勘寿)、 玉手御前(勘十郎)、奴入平(文哉)、 浅香姫(清五郎)、高安俊徳丸(簀一 郎)。
二〇二一	令和3	3/4~15	地方公演 (九州・中部・関 東)	摂州合邦辻	合邦住家の段(中 南都=清丈、切 咲=燕三、後 織=宗助)。 ※豊竹咲太夫・鶴沢燕三休演のため、「合邦住家の段・前」を竹本 織太夫と鶴沢燕二郎が代演。吉田玉也休演のため、合邦道心を吉田 玉志が代演。吉田文昇休演のため、合邦女房を吉田清五郎が代演。 *「清丈」の丈は異体字。	合邦道心(玉也)、合邦女房(文昇)、 玉手御前(和生)、奴入平(玉勢)、浅 香姫(一輔)、高安俊徳丸(玉佳)。